



ICT 活用レシピ小学校編

レシピの中で紹介しているアプリ等は一例となります。アプリの利用を強制するものではありません。市町村、学校の実態に応じて御活用ください。

Google™, Google ドキュメント™, Google スプレッドシート™, Google スライド™, Google フォーム™, Google Jamboard™, Google Meet™, Google Classroom™, Google Earth™ は、Google LLC の商標または登録商標です。
Windows, Word, Excel, PowerPoint, Microsoft Whiteboard は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Keynote, Pages, Numbers, iMovie は、米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
なお、本文中には™マーク、®マークは明記していません。

ICT 活用レシピ小学校編 目次

学年・教科等	単 元 名	ページ	活用場面
4 年 国語	教えてあげる。ごんってこんなきつねだよ「ごんぎつね」	2 8	C 2 C 1
3 年 社会	市の様子の変り変わり「深谷市のようすのうつりかわり」	3 1	C 2 B 2
4 年 社会	都道府県の様子「わたしたちの住む 埼玉県」	3 4	A 1 C 2
5 年 社会	国土の気候と地形の特色	3 7	B 2 C 3
6 年 社会	日本の歴史 「戦国の世から天下統一へ」	4 0	C 2 C 3
6 年 社会	わたしたちの生活と政治「国の政治のしくみと選挙」	4 3	C 2 B 4
3 年 算数	わり算を考えよう	4 6	C 1 B 1
5 年 算数	正多角形と円周の長さ	4 9	B 2 B 3
3 年 理科	太陽と地面の様子	5 2	B 1 C 3
4 年 理科	もののあたたまり方 「水のあたたまり方」	5 5	C 2 C 3
5 年 理科	もののとけ方	5 8	A 1 C 2
1 年 生活	がっこう だいすき	6 1	B 2 C 1
6 年 音楽	こころのうた「おぼろ月夜」	6 4	B 1 C 3
4 年 図画工作	「カメラでせっ写!!」	6 7	C 1
5 年 家庭	2 年間で学ぶ家庭科とは？	6 9	C 2
4 年 体育	器械運動 「跳び箱運動」	7 1	C 2 B 1
3・4 年 外国語活動	アルファベットで遊ぼう	7 4	C 3
5・6 年 外国語	スピーチ、Show & Tell などの発表活動	7 6	C 2
5・6 年 外国語	行きたい国や地域を紹介しよう	7 8	B 4
3・4 年 道徳	「心と心のあく手」（「わたしたちの道徳」文部科学省）	8 0	C 1
6 年 総合的な学 習の時間	やさしい人・やさしいまち～「支える人」になろう～	8 2	C 4 C 1
5 年 学級活動	インターネットの利用	8 5	A 1



教えてあげる。ごんってこんなきつねだよ「ごんぎつね」

目標

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景等について、叙述を基に捉え、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
- 物語を読み、考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
見通す	① ②	○全文を通読し、初発の感想をもつ。 ○初めの感想を共有し、読み深めたいことを話し合っ読みの課題と学習課題を設定する。	◆題名から、どんなきつねが出てくるか想像させる。 ◆心に残った場面や読み深めたい場面を明らかにして感想を交流させることで物語に関心をもたせる。 活用レシピ① ◎アンケート機能のあるアプリとテキストデータ分析ソフトを活用し、初めて読んだ感想を交流する。
		「ごんはどんなきつねか」を話し合いながら読みを深め、読み取ったことを〇〇に伝えよう。	◆家族、先生など、誰に伝えるかを児童一人一人に決めさせ、学習のまとめとして、「教えてあげる。ごんってこんなきつねだよ」をテーマに自分なりに読み取ったことを文章にまとめ、相手に語る活動を行うことを知らせる。【言語活動】
深める	③	○全6場面から成ることを押さえ、物語の概観を捉える。 ○「ごんはどんなきつねか」を書く。	◆物語の状況設定を確かめながら、物語の概観を捉えさせる。 ◎教科書の挿絵をカードにし、並び替えながら物語の展開を追う。デジタル教科書を活用する場合は、「挿絵タブ」の「挿絵カード」を使って、カードを並び替える活動を行わせる。 ◆概観を捉えた段階での、自分なりの考えをまとめさせる。
	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	○ごんの気持ちや気持ちの変化、兵十の気持ちについて読む。	◆それぞれの場面について、初めの感想を基に立てた読みの課題に沿って、読み深めさせる。 ＜読みの課題の例＞ ・ごんがいたずらをしたのはなぜか。 ・ごんがつぐないをはじめたのはなぜか。 ・ごんが兵十に思いを届け続けようとしたのはなぜか。 ・ごんの気持ちは兵十に伝わったか。 ◆場面ごとに「ごんはどんなきつねか」をまとめさせる。 ◎場面ごとの考えをノート等書かせ、写真を撮ってプレゼンテーションアプリか「ドキュメント」に貼り、保存させる。
	⑫	○ごんと兵十の心の通い合いについて、考えの根拠を明確にして話し合う。	◆「ごんと兵十は、心が通い合ったのか」をテーマに、根拠を明らかにしながら自分の考えをまとめさせ、話し合わせる。 活用レシピ② ◎プレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して自分の考えをまとめさせ、共有しながら話し合わせる。
まとめる	⑬ ⑭	○ごんの人物像についてまとめる。 ○読み語りの文章にまとめる。	◆今までの学習を振り返り、全文を通しての「ごんはどんなきつねか」をまとめさせる。 ◎共同編集機能を活用し、文章にまとめる材料を整理させる。それを友達と共有して、意見交換をさせる。

C 2 協働での意見整理（30分）

活用レシピ①

◎アンケート機能のあるアプリとテキストデータ分析ソフトを活用し、初めて読んだ感想を交流する。

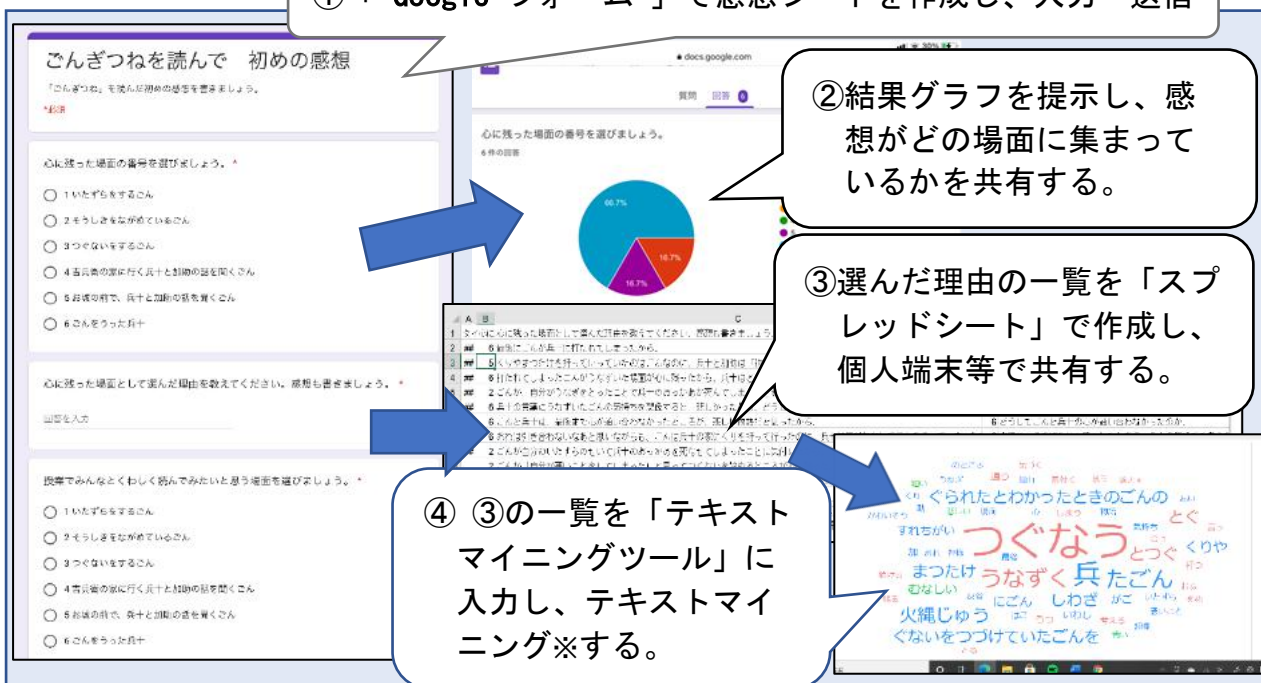
使用するアプリ等

「Google フォーム」（「Microsoft フォーム」）

「ユーザーローカルテキストマイニングツール」 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

【活用の流れ】

①「Google フォーム」で感想シートを作成し、入力・送信



	手 順	ポイント
①	「Google フォーム」で初めの感想を入力するシートを作成し、「Google Classroom」で配布して入力させる。 【シートの項目】 [選択式]心に残った場面 [記述式]その理由や感想 [選択式]詳しく読みたい場面 [記述式]その理由等	・タイピングが苦手な児童には記述式の欄に、キーワードとなる言葉を入力させる。
②	回答結果のグラフ等を大型モニター等に写し共有する。	・感想がどの場面に集まっているかを共有する。
③	選んだ理由の一覧を「スプレッドシート」で作成し、「Google Classroom」等で配布して個人端末で共有する。	・読みの課題設定につなげられるよう、分類したりさらに詳しく説明させたりする。
④	③の一覧を「テキストマイニングツール」に入力してテキストマイニング※し、結果を提示して全体で共有しながら、読みの課題を設定する。	・出現率が高いワードが大きく表示される特長を生かす。 ・授業後にも確認できるよう、ドライブに保存しておく。

※ 文章データ（テキストデータ）から、有益な情報を取り出すことを総称して「テキストマイニング」と言います。分析をする際には、テキストマイニングツールを利用するのが一般的です。

小学校4年 国語

C1 発表や話し合い（25分）

活用レシピ②

◎プレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して自分の考えをまとめさせ、共有しながら話し合わせる。

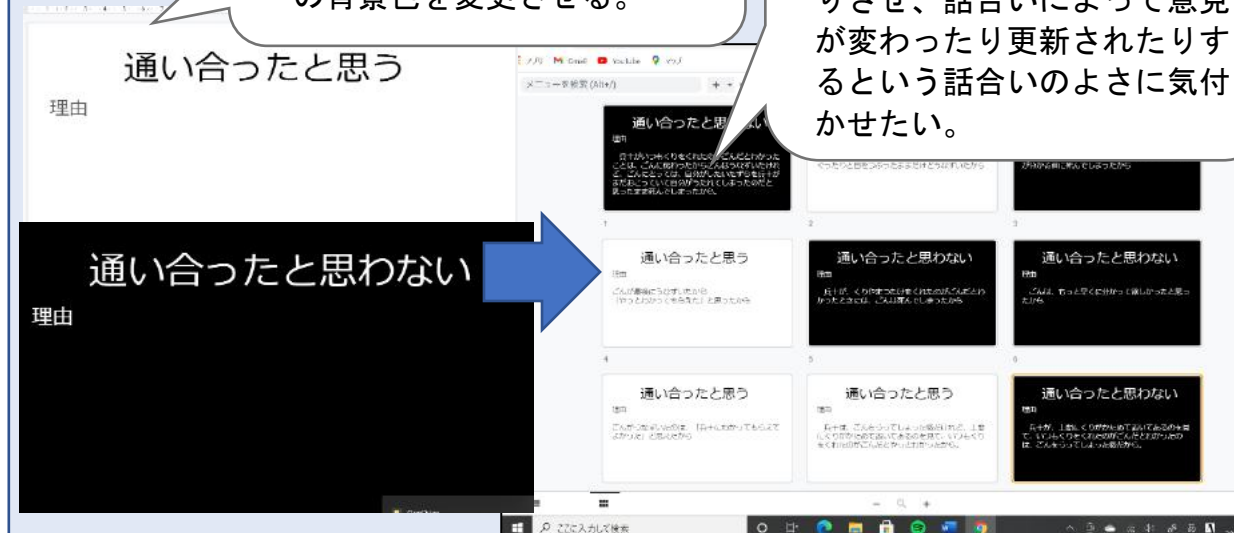
使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」「ロイロノート」）

【活用の流れ】

①心が「通い合った」「通い合わなかった」のどちらの立場に立つかを明かし、シートの背景色を変更させる。

②一斉表示の画面を見せながら話し合いを進める。途中で意見を変更したり理由を追記したりさせ、話し合いによって意見が変わったり更新されたりするという話し合いのよさに気付かせたい。



	手 順	ポイント
①	「ほんとと兵十は、心が通い合ったか」という議題を提示し、「通い合った」「通い合うことはなかった」のどちらの意見か選択させる。	- 自分の立場を明確にさせる。 - まずはワークシートに書かせて、考えをまとめさせる。
②	「スライド」の共同編集機能を使い、出席番号のシートの背景色を変え、理由を書かせる。 「通い合った」＝白 「通い合わなかった」＝黒	選んだ意見によって背景色を変えさせ、友達の意見を可視化して共有する。
③	一斉表示の画面を見せながら、意見を発表させ、聞き合う。話し合いを通して、自分の意見とその根拠を確実にさせる。 学習のまとめはワークシート等を書かせ、①と比べさせて、自分の読みの変容を自覚できるようにする。	- 話し合いの途中で時間を設け、意見の書き換えや理由の追記をしてもよいこととする。 - 途中で画面を見させ、議論によって考えが変わったり理由が更新されたりするという話し合いのよさに気付かせたい。

小学校3年 社会



市の様子の変り変わり「深谷市のようにすのうつりかわり」

目標

○交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、聞き取り調査や地図などの資料で調べ、市や人々の生活の様子が時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ	①	○深谷駅の昔と今の様子の違いについて	◆昔と今の写真を比較し、相違点について考えさせる。 ◆昔と今では様子がちがうことを捉えさせる。
	②	○学習問題の作成	◆児童から出された相違点をもとに、市の様子の変り変わりを追究する学習問題を設定するとともに、学習計画を立てる。
		私たちがくらす深谷市は、どのように変わってきたのだろう。	
調べる	③	○鉄道が通ったことで土地利用や人々のくらしがどのように変わったのか	◆鉄道が通る前と通った後の市の様子を、地図や写真などで調べ、土地利用の様子や人々のくらしが変化したことを捉えさせる。 ◎活用する地図や写真などの資料を予め、共有ドライブに保存しておき、児童自身が自分のタブレット等で見られるようにしておく。
	④	○高速道路が整備されたことで土地利用や人々のくらしがどのように変わったのか	◆高速道路ができた前とできた後の市の様子を、地図や写真などで調べ、土地利用の様子や人々のくらしが変化したことを捉えさせる。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、高速道路ができたことで「市の様子」がどのように変化したか話し合う。
	⑤	○人口の変り変わり	◎市役所などの関係者への聞き取り調査をする場合は、ビデオ会議アプリも活用できる。
	⑥	○公共施設の変り変わり	
	⑦ ⑧	○生活の道具とくらしの変り変わりについて	◆生活の道具について調べてまとめ、市の人々の生活の時期による違いを捉えさせる。 活用レシピ② ◎プレゼンテーションアプリを活用し、生活の道具の使い方について、資料としてまとめる。
まとめる	⑨ ⑩	○年表づくり ○学習問題の結論	◆調べたことを年表や文などにまとめさせる。 ◆何がどのように変わってきたのかについて話し合わせる。
生かす	⑪	○これからのまちづくりについて	◆これからの深谷市の発展について考えさせたり討論させたりする。 ◆単元の前と後で児童の考えにどのような変容があったのかを見取るようにする。

C 2 協働での意見整理（25分）

活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し、高速道路ができたことで「市の様子」がどのように変化したか話し合う。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】

① グループごとに指定のスライドで作業させる。

② 「高速道路」を確認する。

④ 付箋機能を活用して、高速道路ができる前とできた後の違いを書かせる。「Google Jamboard」を活用することで考えを共有することができるため、対話が活発になる。

③ タッチペンを使用して、直接、資料に書き込みをさせる。



	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイル「高速道路ができた後」を学級全体で共有しておく。グループごとに指定のスライドで作業させる。	・グループ①は、スライド① グループ②は、スライド②のように予め指定しておく。
②	「高速道路」の位置を確認し、タッチペンで書き込みをさせる。	・「高速道路」に着目させる。
③	付箋機能を活用して、高速道路ができる前と後の違いについて、気付いたことを書かせる。	・グループ内で予め、自分の付箋の色を決めておく。
④	グループごとの「Google Jamboard」を電子黒板で表示し、学級全体で気付いたことを共有する。	・授業後にも確認できるようにドライブに保存しておく。

小学校3年 社会

B2（B5） 調査活動（40分）※家庭学習でも可

活用レシピ②

◎プレゼンテーションアプリを活用し、生活の道具の使い方について、資料としてまとめる。

使用するアプリ等

「Google スライド」 （「PowerPoint」「Keynote」）

【活用の流れ】

児童A作成

	①おじいさん、おばあさんが 子どものころ	②お父さん、お母さんが 子どものころ	③ぼくた (今)
道具の様子	 【使う理由】 せんたくするため 【道具の使い方】 たらいに水をいれて、あらう物を板の上でこする。力かきつけて、気を付ける。 ・あらう物をあらう時間と手間が長い	 【使う理由】 せんたくしてしぼるため 【道具の使い方】 あらう所とだつ水する所が分かっている。気を付けてうつす。 ・電気せい品がふえ、べんりになってきた。家の仕事にかかる時間と手間が少なくなった。	 【使う理由】 せんたくしてかわかすため 【道具の使い方】 予やくタイマーがあり、せんたくからかんそうまで自動でできる。 ・自動ではたらいしてくれるきがいがたくさんつかわれるようになった。
②調べる観点を明らかにし、調べ学習を行わせる。	①おじいさん、おばあさんが 子どものころ  【使う理由】	②お父さん、お母さんが 子どものころ  【使う理由】	③ぼくたち、わたしたち (今)  【使う理由】

① カメラ機能を活用して、道具を撮影し、挿入させる。

③ 文字の入力が難しい場合は、音声入力の機能を活用させる。

④ 今も使われている昔の道具があることにも気付かせたい。

② 調べる観点を明らかにし、調べ学習を行わせる。

	手 順	ポイント
①	学校で調べた（体験した）昔の道具や家にある現在の道具について調べ、資料にまとめることを確認する。	・ 調べる観点を確認する。
②	カメラの撮影や図の挿入方法、動画撮影等を指導し、資料を作成させる。	・ 音声入力機能の指導も行う。
③	グループ内で互いのスライドを確認し、時期による人々の生活の違いを理解する。 （児童の実態に応じてコメント機能を活用してもよい。）	・ 授業後にも確認できるようにドライブに保存しておく。

小学校4年 社会



都道府県の様子「わたしたちの住む 埼玉県」

目標

○県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、県の地理的環境の概要を理解できるようにする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ	①	○日本の中の埼玉県	◆県の地図を見て思ったことや気付いたことを発表させる。 ◎活用する地図や写真などの資料を予め、共有ドライブに保存しておき、児童自身が自分のタブレット等で見られるようにしておく。
	②	○学習問題の作成	◆児童から出された疑問等をもとに、県の概要を追究する学習問題を設定するとともに、学習計画を立てる。
		わたしたちの住む埼玉県には、どのような特色があるのだろうか。	
調べる	③	○埼玉県の地形	◆県全体の主な山地や平地、川などの位置や広がりについて調べ、白地図などにまとめる活動を通して、県の地形の特色を捉えさせる。 活用レシピ① ◎地図アプリを活用し、「埼玉県の地形の特色」について視覚的に捉える。
	④	○埼玉県の市や町、村	◆県庁のある市や人口が集中している市、交通の要衝となっている市、産業の盛んな市などの名前や位置などについて調べてまとめ、県の様子を捉えさせる。
	⑤	○埼玉県の農業	◆県の主な農産物、それらの分布や産地などについて調べてまとめ、県の農業の概要を捉えさせる。 ◎市役所などの関係者への聞き取り調査をする場合は、ビデオ会議アプリも活用できる。
	⑥	○埼玉県の工業	◆県の主な工業製品と工業が盛んな地域や分布について調べてまとめ、県の工業の概要を捉えさせる。
	⑦	○埼玉県の交通	◆県内を通る高速道路や鉄道などについて調べてまとめ、県の交通網の広がりを捉えさせる。
まとめる	⑧	○埼玉県の特色について考える	◆県の地形や産業、交通網などの情報を統合して、県の特色を捉えさせる。 活用レシピ② ◎ホワイトボードアプリを活用し、「埼玉県の特色」について話し合う。
	⑨	○学習問題の結論	◆埼玉県の特色についてまとめさせる。

小学校4年 社会

A 1

教師による教材の提示（15分）

活用レシピ①

◎地図アプリを活用し、「埼玉県の地形の特色」について視覚的に捉える。

使用するアプリ等

「Google Earth」

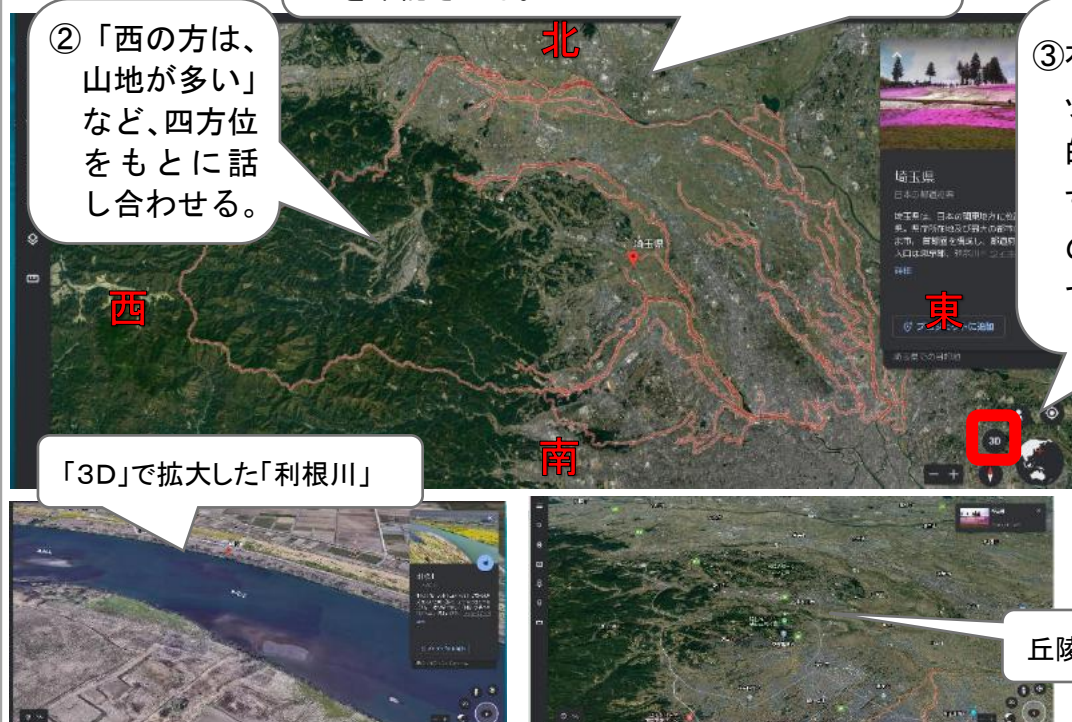
（地理院地図 <https://maps.gsi.go.jp/>）

【活用の流れ】

①「埼玉県」の全体図を映し、県の地形の特色を確認させる。

②「西の方は、山地が多い」など、四方位をもとに話し合わせる。

③右下「3D」をクリックすると、立体的な地図を表示することができるので必要に応じて活用させる。



「3D」で拡大した「利根川」

丘陵の様子

	手 順	ポイント
①	「埼玉県」の全体図を提示し、県の大まかな地形の特色を確認する。「拡大」「縮小」など視点を変えながら、地形について気付いたことを共有し、理解を深める。	・ 始めに「埼玉県の地形の特色」について予想しておくとうい。
②	県全体の主な山地や平地、川などの様子を提示し、その特色を確認させる。 （山地・丘陵・台地・低地の様子、川の様子 など）	・ 「3D」表示やストリートビューを活用する。 ・ 必要に応じて立体地図模型等も活用し、高低差などをより具体的に捉えられるようにする。

C 2 協働での意見整理（25分）

活用レシピ②

◎ホワイトボードアプリを活用し、「埼玉県の特徴」について話し合わせる。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」（「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】

①グループごとに指定のスライドで作業を行わせる。

グループ①

埼玉県の特徴をとらえよう。＜学習のポイント＞地形、産業、交通の関係から

②＜学習のポイント＞を確認させる。



③付箋機能を活用して、県の特徴について考えたことを書かせる。
「Google Jamboard」を活用することで考えを共有することができるため、対話が活発になる。

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイル「埼玉県の特徴をとらえよう」を学級全体で共有しておく。グループごとに指定のスライドで作業を行わせる。	・グループ①は、スライド① グループ②は、スライド②のように予め指定しておく。
②	付箋機能を活用して、地形や産業、交通などから捉えた県の特徴について、考えたことを書かせる。	・グループ内で予め、自分の付箋の色を決めておく。
③	グループごとの「Google Jamboard」を電子黒板で表示し、学級全体で考えを共有する。	・授業後にも確認できるようにドライブに保存しておく。

小学校5年 社会



国土の気候と地形の特色

目標

○日本の国土の地形や気候の様子について理解するとともに、地図帳やグラフ、統計などの各種の資料を通して情報を適切に選び、まとめる技能を身に付けるようにする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ	①	○日本各地の気候の様子の違いを複数の資料の比較から読み取り、気付いたことや疑問に思ったことから学習問題をつくる。	◆気温、降水量のグラフを中心に各地域の気候の様子を調べさせる。 ◆近隣の都道府県のみにならないよう、代表的な気候に関わる都道府県を示しておく。
		気候の違いとその原因をみつけよう。	
調べる	②	○日本の地形の様子と気候について調べ、気が付いたことや分かったことをまとめる。	◆国土の様子や都道府県の位置などから大まかな日本の気候の特徴を捉えられるようにする。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、日本の白地図（③時間目は地形図や台風の経路が分かるものなどを用意）に各地の雨温図を貼り付けていく。
	③	○日本の地形と気候の特色について調べ、気が付いたことや分かったことについて話し合う。	◆東西の気候の違いについて、各地の山脈や平野の位置と雨温図と関連付けながら調べさせる。 ◆梅雨や台風、季節風など気候に与える影響のあるものについて興味を深めさせる。
まとめる	④	○日本の国土の地形や気候の特色について、気が付いたことや考えたことをグループで検討し、まとめる。	◆これまでの学習をもとに、日本の地形や気候の様子、違いがある理由についてグループでまとめ、発表資料を作成させる。 活用レシピ② ◎プレゼンテーションアプリを活用し、今まで作成した資料を生かし、発表資料の作成を行い発表する。
	⑤	○グループごとの発表 ○学習のまとめ	◆事前に発表の仕方を確認しておく。 ◆学習問題について自分の考えを書かせる。

B 2 調査活動（25分）

活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し、日本の白地図（③時間目は地形図や台風の経路が分かるものなどを用意）に各地の雨温図を貼り付けていく。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」（「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】

① 各グループで雨温図などの資料を貼り付けさせる。

② グラフを拡大したり、比較するグラフの近くに移動させみせたりすることで変化に気が付きやすくなる。

気温の変化 都道府県も似ている

北海道より新潟の方が冬の降水量が多い

北の方が寒く、南の方が暖かい

次時の課題 何で新潟県だけ冬に降水量

東京や大阪は夏から秋にかけて降水量が多い

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイル「日本の地図」を学級全体で共有しておく。グループごとに指定のスライドで作業させる。	・各グループで使用するスライドが分かるように指定しておく。
②	都道府県の雨温図を白地図（地形図等）に貼り付けさせる。	・あらかじめ代表的な雨温図等が収集できるサイトを例示しておく。
③	付箋機能を使い、地形と気候に関することや地域ごとの違いを書かせる。	・自分の意見がわかるようグループ内で付箋の色を分けておく。
④	それぞれのグループの意見を電子黒板等で表示し、全体で共有する。	・単元を通して使用するため、ドライブに保存しておく。

小学校5年 社会

C3 協働制作（35分）

活用レシピ①

◎プレゼンテーションアプリを活用し、今まで作成した資料を生かし、発表資料の作成を行い発表する。

使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）

【活動の流れ】

①共同編集機能を活用し、グループで割り振りを行い、資料作りに取り組ませる。

②授業中に作成したもの活用させ、資料作りの時間短縮や効率化を図る。

	手 順	ポイント
①	グループごとに「Google スライド」で資料を作成させる。	・グループで一つの「スライド」を共同編集させる。
②	今まで作成した地図を挿入する方法や、その他の図の挿入、フリー素材の検索方法、挿入方法を指導し、資料を作成させる。	・本時までで作成した地図等の資料を活用させ、作成時間の短縮を図る。
③	グループ内で互いのスライドを確認させる。 （修正・補足があったらコメント機能を活用）	・「もっとよくなる」という視点で積極的にコメントするよう説明する。
④	それぞれのグループの資料を電子黒板等で表示し、全体で共有する。	・内容とともに見やすい資料になるよう工夫させる。

小学校6年 社会



日本の歴史 「戦国の世から天下統一へ」

目標

○世の中の様子、人物の働きなどに着目して、地図や年表などの資料で調べ、戦国の世の統一における織田信長、豊臣秀吉の役割を考えることができる。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ	①	○戦国時代の様子についての話し合い	◆両軍の違いに着目させ信長の戦い方に関心をもたせる。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、「長篠の戦い」の様子について話し合わせる。
	②	○学習問題の作成 織田信長、豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世を治めていったのでしょうか。	◆児童から出された疑問をもとに二人の武将がどのように戦国の世をおさめたのかを追究する学習問題につなげる。
調べる	③	○日本と外国との関わりについて	◆この時代の世界の様子や、キリスト教がどのように伝わってきたのかを、教科書の地図を活用してとらえさせる。 ◎活用するグラフや年表などの資料を予め、共有ドライブに保存しておき、児童自身が自分で見られるようにしておく。
	④	○織田信長の戦いと政治の様子	◆「安土城の城下町」や「安土城の位置」から、安土城の意義を考えられるようにする。
	⑤	○豊臣秀吉の戦いと政治の様子	◆「検地の様子」や「刀狩令」の言葉から、それらの政策が社会にどのような影響をあたえたのかを考えさせる。
まとめる	⑥	○学習問題の振り返り ○発表資料の作成	◆「信長」か「秀吉」のどちらかを選ばせ、グループごとに資料を作成させる。 活用レシピ② ◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
	⑦	○グループごとの発表 ○学習のまとめ	◆事前に発表の仕方を確認しておく。 ◆発表を参考に、学習問題について自分の考えを書かせる。

C2 協働での意見整理（25分）

活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し、「長篠の戦い」の様子について話し合わせる。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】

①グループごとに指定のスライドで作業させる。

②画面を拡大させて、詳しく確認させる。

②タッチペンを使用して、直接、資料に書き込みをさせる。

③付箋機能を活用して、織田徳川連合軍と武田軍の違いを書かせる。「Google Jamboard」を活用することで考えを共有することができるため、対話が活発になる。

鉄砲がたくさんある

馬が入れないようにさくがある。

騎馬隊が中心

家康・秀吉・信長が一緒に戦っている

信長がいる

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイル「長篠の戦い」を学級全体で共有しておく。グループごとに指定のスライドで作業をさせる。	・グループ①は、スライド① グループ②は、スライド②のように予め指定しておく。
②	信長、秀吉、家康の位置を確認させ、タッチペンで書き込みをさせる。	・図を拡大させて、位置を確認させる。
③	付箋機能を活用して、織田徳川連合軍と武田軍の違いについて、気付いたことを書かせる。	・グループ内で予め、自分の付箋の色を決めさせておく。
④	グループごとの「Google Jamboard」を電子黒板で表示し、学級全体で気付いたことを共有させる。	・授業後にも確認できるようにドライブに保存しておく。

C3 協働制作（35分）

活用レシピ②

◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。

使用するアプリ等

「Google スライド」 （「PowerPoint」 「Keynote」）



【活用の流れ】

児童 A 作成

児童 B 作成

児童 C 作成

①共同編集機能を活用し、グループ内でページの割り振りを行い、資料作りに取り組ませる。

②フリー素材を検索して挿入させる。

	手 順	ポイント
①	グループごとに信長・秀吉のどちらかを選択させる。 グループごとに「Google スライド」で資料を作成させる。	・グループで一つの「Google スライド」を共同編集させる。
②	図の挿入などフリー素材の検索方法、挿入方法を指導し、資料を作成させる。	・資料や素材の著作権について説明する。
③	グループ内で互いのスライドを確認させる。 （修正・補足があったらコメント機能を活用）	・「もっとよくなる」という視点で積極的にコメントするよう説明する。

小学校6年 社会



わたしたちの生活と政治「国の政治のしくみと選挙」

目標

○我が国の政治のしくみについて、見学・調査・資料収集などを通して、立法・行政・司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、国民として政治への関わり方について多角的に考えようとする態度を養う。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ	①	○国会の働きについて整理し、一文で説明する。	◆国会の働きや選挙の働きについて、国民の願いとの関連で調べさせる。 (例) ・国会には、衆議院と参議院がある。 ・法律や予算などを多数決で決める。
	②	○選挙や税金に関する資料を収集して調べ、選挙のしくみや税金の働きについて整理し、一文で説明する。	◆選挙のしくみや税金の働きについて、国民の生活との関連で調べさせる。 (例) ・国会議員、都道府県や市区町村の長や議員は選挙で選ばれる。 ・公共サービスや公共施設に係る費用の多くは、税金によってまかなわれている。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、税金の使われ方について、どのようなものに使われているかを中心に話し合わせる。
調べる	③	○内閣に関する資料を収集して調べ、内閣の働きについて整理し、説明する。	◆内閣のしくみや働きについて、国民の願いとの関連で調べさせる。
	④	○裁判所に関する資料を収集して調べ、裁判所の働きや裁判員制度について整理し、説明する。 ○学習したことを基に、三権分立の関係を図にまとめる。	◆裁判所の働きについて国民の権利との関連で調べさせる。 ◆国会・内閣・裁判所の関係を考えさせる。 活用レシピ② ◎プレゼンテーションアプリを使い、三権分立の関係図を作成する。完成した図を元にグループ内で発表する。
まとめる			

C 2 協働での意見整理（25分）

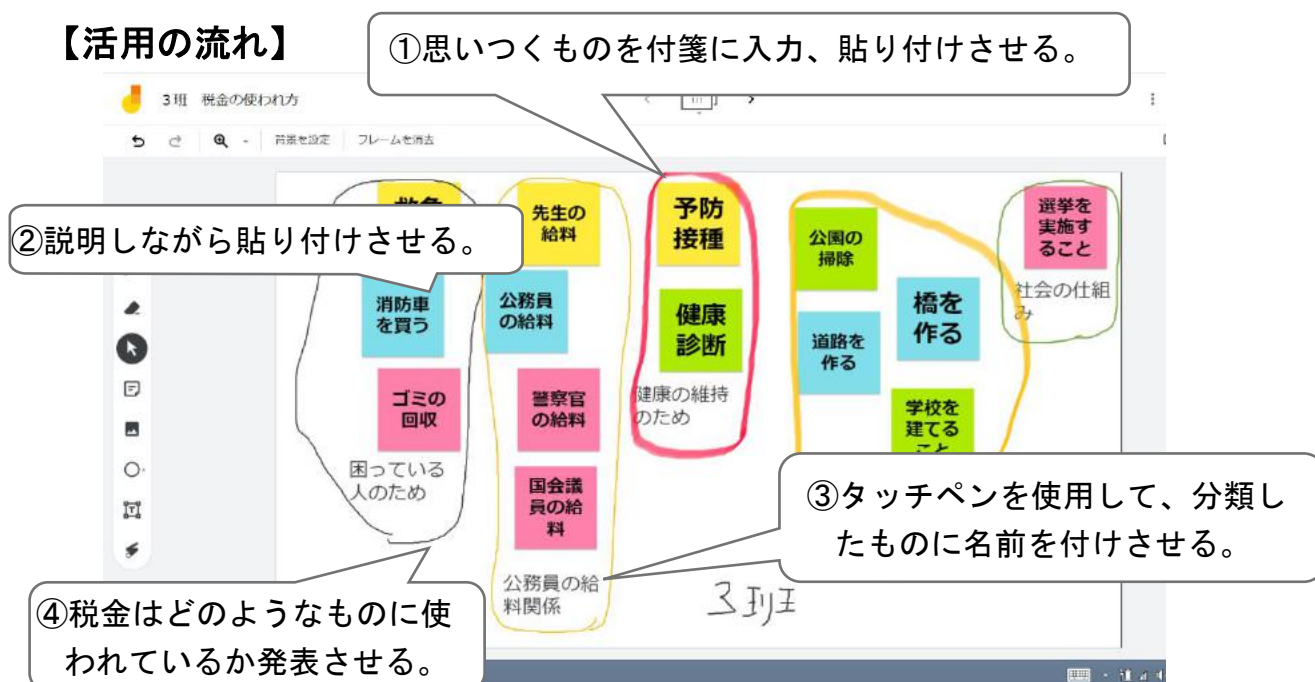
活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し、税金の使われ方について、どのようなものに使われているかを中心に話し合わせる。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	「Google Jamboard」を起動し、身近なもので税金の使われているものを想起させる。思いつくものを思いつくままに「Google Jamboard」の付箋機能を使って書き留めさせる。	・自力解決学習。個人でまずは思いつくままに列挙する。 ・利益を上げるものではないものという視点も考えさせる。
②	グループでの「Google Jamboard」に自分の考えたものを貼り付けさせていく。	・ただ貼り付けていくのではなく、説明しながら貼る。
③	全員の付箋を見て、同じようなものを分類していく。分類したものに名前を付けさせていく。	・分類したものに名前を付けていく。
④	グループごとに話し合った内容を発表する。どのような分野のものが主に税金として使われているかを中心に発表させる。	・税金とはどのようなものか、公金という性質に気付かせるようにまとめる。

小学校6年 社会

B 4 表現・制作（35分）

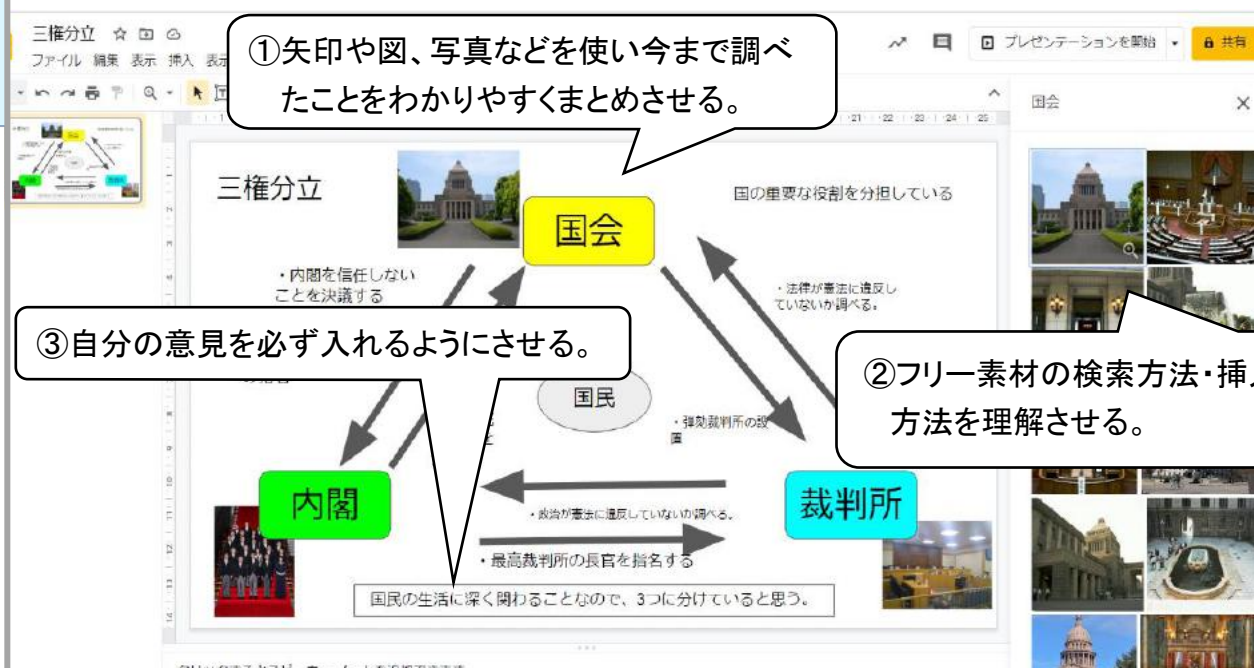
活用レシピ②



◎プレゼンテーションアプリを使い、三権分立の関係図を作成する。完成した図を元にグループ内で発表する。

使用するアプリ等

「Google スライド」 （「PowerPoint」 「Keynote」）



	手 順	ポイント
①	今まで調べたことをわかりやすく図にまとめる。権力が分散し、関わり合っていることをまとめながら理解させる。	・ 矢印の方向や回転、コピーなど効率的な作成方法を指導する。
②	写真の挿入などフリー素材の検索方法、挿入方法を指導し、関係図を作成させる。	・ 資料や素材の著作権について説明する。
③	スライドのどこかに、なぜ「三権分立」となっているのか、自分の考えを必ず入れるようにさせる。	・ 作成しながら三権分立について理解し、自分の考えをもてるようにする。



わり算を考えよう

目標

○除法の意味（等分除、包含除）を理解し、問題の答えを求めることができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
① ②	○同じ数ずつわけるときの計算について考えることについて課題を設定する。	◆半具体物を操作しながら答えの求め方を考え、説明させる。
	わり算について考えよう。	
	○除法の意味や記号を理解する。	◆半具体物を操作したことを式に表すことができることを確認する。
③ ④	○わり算（等分除）の式の意味や記号を理解する。 ○わり算（等分除）の答えの見付け方を理解する。	◆児童の考え方から、半具体物を用いずに答えを求めるには乗法（かけ算）を用いることができることを確認する。 活用レシピ① ◎カメラ機能・スライド機能を活用し、児童一人一人の考え方を学級全体に共有する。
⑤ ⑥	○わり算（包含除）の意味を理解する。 ○わり算（包含除）の答えの見付け方を理解する。	◆前時の問題から、等分除と包含除の違いについて触れ、本時の問題もわり算を用いて答えを求めることができることを確認する。
⑦	○学習内容を確認し振り返る。	◆適用問題に取り組ませ理解を定着させるとともに、児童の学習状況を把握する。 活用レシピ② ◎アンケート機能を活用し、児童の学習の定着等の状況を把握する。

小学校3年 算数

C1 発表や話し合い（15分）

活用レシピ①

◎カメラ機能・スライド機能を活用し、児童一人一人の考え方を学級全体に共有する。

使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）

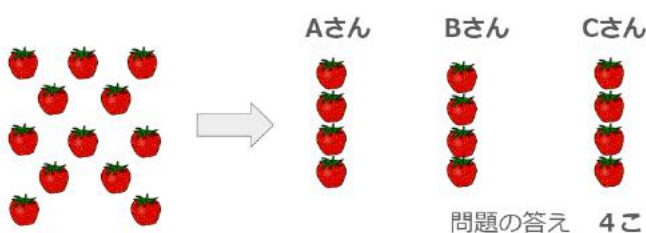
【活用の流れ】

①児童は、撮影したノートや書き込んだスライドを画面共有する。

問題 いちごが12こあります。3人で同じ数ずつ分けると1人分は何こになりますか。

か題 $12 \div 3$ の答えのもとめ方を考えよう。

自分の考え



① いちご 12 個あります。3 人で同じ数ずつ分けると、1 人分は何こになりますか。

(式) $12 \div 3$

② $12 \div 3$ の答えのもとめ方を考えよう。

(自分の考え)

1 人分が 1 こ $\rightarrow 1 \times 3 = 3$
 1 人分が 2 こ $\rightarrow 2 \times 3 = 6$
 1 人分が 3 こ $\rightarrow 3 \times 3 = 9$
 1 人分が 4 こ $\rightarrow 4 \times 3 = 12$

答え 4こ

②教師は、共有された画面をもとに考え方を整理する。

	手 順	ポイント
①	教師は、本時の課題（スライド）を児童のタブレット PC に送信する。	・ 児童が入力する箇所を十分に確保しておく。
②	児童は、学習ノートを撮影し画面共有する。または、送信されたスライドに、自分の考え方や答えをペン入力し授業者へ送信する。	・ キー入力やペン記入の際は文字を少なくするよう指導する。（数字や記号を中心に入力させる。） ・ 撮影した画像を共有することは他教科でも活用できる。
③	教師は、全ての児童の考え方を確認するとともに、考え方を全児童と共有する。	・ 授業後にも確認できるようドライブに保存する。

B 1 個に応じた学習（5分）

活用レシピ②

◎アンケート機能を活用し、児童の学習の定着等の状況を把握する。

使用するアプリ等

「Google フォーム」 （「Microsoft フォーム」）

【活用の流れ】

①教師は項目を作成する。
（回答方法は、記述式、選択式可能）

②入力後教師へ送信させる。
教師は全児童の回答結果の集約を見ることで、児童の学習状況を把握する。（個別の回答状況も確認可能）

	手 順	ポイント
①	教師は、児童一人一人の学習状況に係るアンケート項目を作成する。	・ 各項目では、選択による回答のほうが児童はスムーズに回答できる。
②	児童は、適用問題や学習振り返りアンケートに回答する。	・ 計算は学習ノートに記入させ、回答のみ入力させる。
③	教師は、結果を集約し、児童の学習状況を確認し、次時の指導に生かす。	・ 達成状況が難しい場合は、再度適用問題に取り組ませる。 ・ 単元終了時には児童の学習ノートを回収し評価する。

小学校5年 算数



正多角形と円周の長さ

目標

○正多角形の性質を理解してかき方を考えたり、円周率を使って直径や円周の長さを求めたりすることができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
①	○身の回りから正多角形を見つけ、紹介し合う。 ○正八角形や正五角形の辺の長さや角の大きさを測り、性質を調べる。	◆正多角形やいろいろな多角形について関心をもたせる。 活用レシピ① ◎身の回りにあるいろいろな多角形を探し、写真に撮って紹介し合う。 ◆正多角形は、すべての辺の長さと角の大きさが等しいことに気付かせる。
②	○円の中心の周りを等分する方法で、正多角形をかく。	◆正多角形の頂点がすべて円の上にあることに気付かせる。 ◆正八角形を例に、正六角形や正五角形の場合の角度を調べて作図する。
③	○円の周りを半径の長さで区切って正六角形をかく。	◆正六角形は、6つの合同な正三角形で構成されていることに気付かせる。 ◆コンパスを使って作図し、多様なかき方を体験させる。
④	○正多角形の性質を使って、プログラミングソフトで正多角形をかく。	◆学習したことを使い、コンピュータの画面上でいろいろな正多角形をかく。 活用レシピ② ◎プログラミングソフトを使って、正多角形をかく。
⑤	○円周の意味を知る。 ○円周の長さは直径のおよそ何倍か調べる。	◆正六角形の性質から、直径の3倍より少し長いことをとらえさせる。 ◆外接する正方形から、4倍より短いことを捉えさせる。
⑥	○円周と直径の長さを測る。 ○円周率の意味を知り、円周の長さを求める。	◆実際に長さを測る活動を通して、円周の長さと直径の長さの割合はいつも等しくなることに気付く。 ◆「円周率」という用語と、約3.14であることを押さえる。 ◆円周率を用いて、計算で円周の長さを求めるようにする。
⑦	○円周と直径の長さの関係を調べ、比例の関係を見出す。	◆円の直径の長さが変化した時の円周の長さの変化を調べ、2つの量の関係が比例であることに気付かせる。
⑧	○学習内容の定着を確認する。	◆確認テストを行い、定着を確かめる。 ◆単元の学習を振り返り、学んだことをまとめる。

B 2 調査活動 (15分)

活用レシピ①

◎身の回りにあるいろいろな多角形を探し、写真に撮って紹介し合う。

使用するアプリ等

学習用端末のカメラ機能

【活用の流れ】

①教室や学校にある多角形を探し、写真を撮らせる。



②グループ内で画面を見せ合いながら、見つけたものを紹介させる。

③画面転送を用いて、大型モニター等に映し、全体で共有する。

	手 順	ポイント
①	身の回りから、三角形や四角形ではないものを見付け、写真を撮らせる。	・ 家庭での課題とすることも考えられる。
②	見つけたものをペアやグループで発表し合う。	・ 画面を直接見せ合って、短い時間で発表させる。
③	大型モニター等に映し、全体で共有する。	・ 多様な多角形を取り上げ、関心を高める。
④	見つけた形にも、三角形や四角形と同じように辺や角があることに気付かせる。	・ 辺や角という用語を確認し、その数にも着目させる。

B3 思考を深める学習（30分）

活用レシピ②

◎プログラミングソフトを使って、正多角形をかく。

使用するアプリ等

Scratch (<https://scratch.mit.edu/>)

【活用の流れ】

①正方形をかくプログラムを送る。児童が手直しできるように、誤ったものを送ることも考えられる。

②いろいろな多角形を自由にかいてみます。

	手 順	ポイント
①	授業前に、児童に「Scratch」のサンプルファイルを送付しておく。児童はそのファイルを読み込んで作業をする。	・正方形をかくプログラムを送る。 ・初期化のブロックも含める。
②	「〇回繰り返す」のブロックを使って正多角形をかく方法を知る。	・繰り返しのブロックを使った場合と使わない場合のプログラムを比べさせる。
③	正三角形をかくプログラムをつくる。	・正方形のものを改変させる。
④	自分で決めたいろいろな正多角形をかくプログラムをつくる。	・プログラムの一部を変えることで、六角形や八角形など、いろいろな図形がかけられる。

小学校3年 理科



太陽と地面の様子

目標

- 太陽と地面の様子との関係について、共通点や差異点を基に問題を見いだすことができる。
- 太陽と地面の様子との関係について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録することができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
①	○影の写真の撮影と写真の比較	◆グループごとに撮影した写真を比較させ、児童一人一人が問題を見いだせるようにする。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、撮影した影の様子を比較する。
②	○問題の設定、予想 かげは、どこにできるのだろうか。	◆児童が見いだした問題を基に、問題を設定する。
③	○影の観察、まとめ	◆身の回りにできる影について観察し、記録させる。 ◎第1時に撮影した写真を見直し、影は太陽の反対側にできているのか確認させる。
④	○問題の設定、予想 太陽はどのように動くのだろうか。	◆午前と午後では、影のできる場所が違うことなどから、問題を見いだせるようにする。
⑤	○太陽の動きの観察、記録	◆方位磁針や遮光板、タブレット等を使い、太陽や影の動きを記録させる。 活用レシピ② ◎グループごとにプレゼンテーションアプリ等を活用して、太陽や影の動きを記録する。
⑥	○まとめ	◎グループごとの記録を共有する。 ◆太陽の動きについて、方位と関係付けてまとめるようにする。
⑦	○問題の設定、予想 日なたと日かげの地面のあたたかさには、どのようなちがいがあるのだろうか。	◆日なたと日陰の違いを基に、問題を見いだせるようにする。
⑧	○日なたと日陰の温度の計測、まとめ	◆午前と正午の2回に分けて地面の温度を計測させる。
⑨	○学習のまとめ	◆太陽と地面の様子との関係について、学習したことをまとめさせる。



B 1 個に応じた学習（10分）

活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し、撮影した影の様子を比較する。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」（「Microsoft Whiteboard」）

【活用の流れ】



①「画像を追加」を選び、グループで撮影した画像を表示し、並べさせる。

	手 順	ポイント
①	グループで撮影した影の写真を共有する。 「Google Jamboard」で写真を並べさせる。	・共有する写真は、グループで1つに絞る。
②	拡大機能を使って写真を拡大し、詳しく観察させる。	・影の様子に着目させる。
③	付箋機能を活用して、影について気付いたことを記入させる。	・気付いたことを黄色、疑問点を水色など、色を決めておく。
④	差異点や共通点を基に、児童一人一人が問題を見だし、記入する。	・次時に、学級全体で問題を設定するので、保存させる。

C3 協働制作（20分）

活用レシピ②

◎グループごとにプレゼンテーションアプリ等を活用して、太陽や影の動きを記録する。

使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）

【活用の流れ】

The screenshot shows the Google Slides interface. A red circle highlights the 'Insert' button in the top toolbar. Another red circle highlights the 'Start presentation' button in the top right corner. Three callout boxes provide instructions:

- ①保存した画像を挿入させる。（Insert button callout）
- ②撮影した日時を記入させる。（Text box callout showing '1月20日 12時30分'）
- ③プレゼンテーションを開始し、太陽と影の動きを確認させる。（Start presentation button callout）

チャレンジしてみよう

「書式設定オプション」→「調整」→「透明度」の機能を使うと、写真の重ね合わせをすることができる。
（3枚程度が限界なので、円などの図形を上から重ねて見やすくするなどの工夫が必要）

	手 順	ポイント
①	グループごとに撮影した写真を挿入させる。	・グループで共同編集させる。
②	テキストを挿入し、撮影した日時を入力させる。	・テキストの色や大きさを工夫させる。
③	プレゼンテーションを確認し、保存させる。	・スライドの順番が間違っていないか確認させる。

小学校4年 理科



もののあたたまり方 「水のあたたまり方」

目標

○金属、水及び空気の性質について、既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想することができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
①	○水はどのようにあたたまっていくのか予想する。	◆生活経験やこれまで学習した金属や空気のあたたまり方を想起しながら個人で予想を立てた後、班で話し合い、より根拠のある予想が立てられるようにする。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、水のあたたまり方についての予想をたてる。
		水はどのようにあたたまるのだろうか。
②	○実験方法を考える。	◆既習事項を参考に、予想を確かめるための実験方法を考えさせる。
③	○水はどのようにあたたまっていくのか調べる。	◆実験方法や注意事項を確認し、実験を行わせる。 ◎実験用コンロやアルコールランプなどの実験器具の使い方は動画等で作成しておき、児童が困ったときにいつでも確認できるようにしておく。 ◎班ごとに実験の様子や結果を写真や動画で記録する。 ◆実験中の加熱器具の扱い方やけがに注意させる。
④	○結果を整理し、考察する。	◆撮影した写真や動画を参考に、実験結果を班で話し合い、あたたまった水の動きに着目しながら、考察させる。 活用レシピ② ◎プレゼンテーションアプリに、実験で撮影した写真や動画を貼り付け、整理し考察しながらまとめる。
⑤	○水のあたたまり方についてまとめる。	◎班ごとに作成したまとめを共有する。 ◆あたたまった水は上に動き、動きながら順に全体があたたまっていくことを捉えさせる。 ◆金属や空気、水のあたたまり方を比較しながら、物のあたたまり方について学んだことをまとめる。

C 2 協働での意見整理（10分）

活用レシピ①

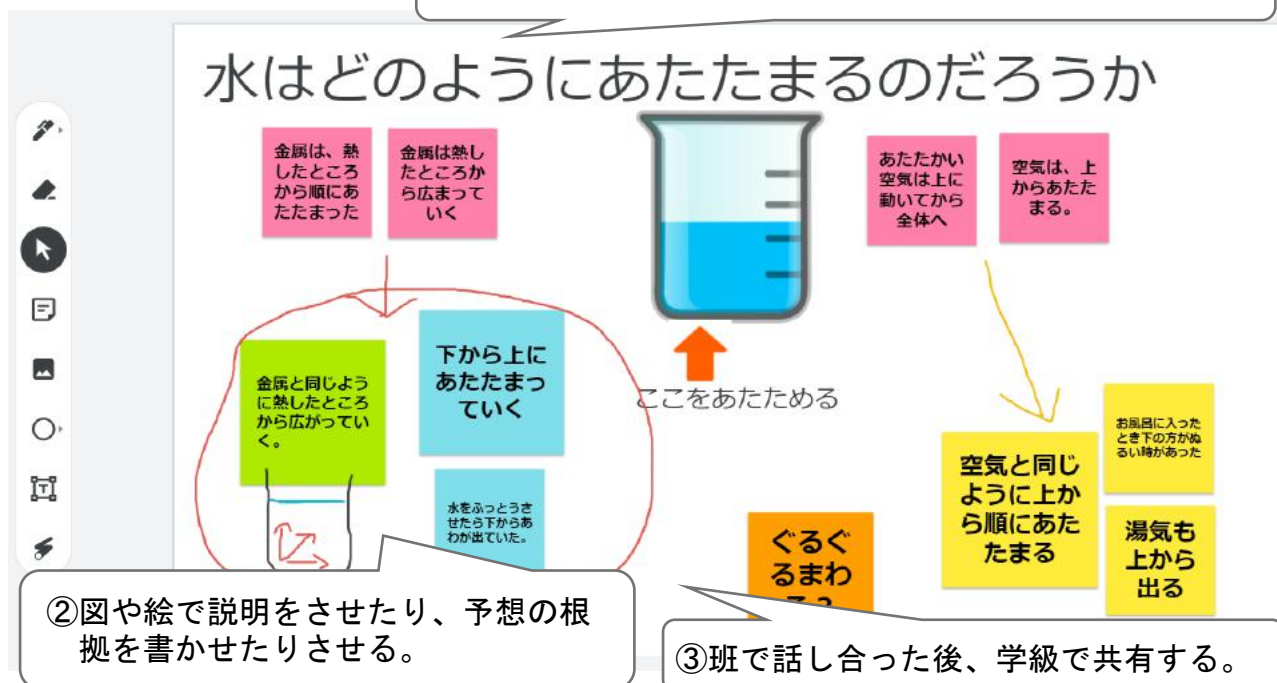
◎ホワイトボードアプリを活用し、水のあたたまり方についての予想をたてる。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」）

【活用の流れ】

① 班ごとに個々が考えた予想を入力し、発表し合う。



	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイル「水のあたたまり方」を学級全体で共有しておく。	
②	個人で予想を考えさせる。	・ 必ず個人で考えをもってから共有するようにする。
③	付箋機能を活用して、既習事項や個人で考えた予想について書かせる。	・ 既習事項や班内での自分の色等を決めておく。
④	各班の「Google Jamboard」を電子黒板で表示し、学級全体で共有する。	・ 実験後にも確認できるよう保存しておく。
⑤	話し合い、共有したことをもとにして、個人の予想を再考し、より根拠のある予想にさせる。	・ どうしてその予想になったか理由も言えるようにする。

小学校4年 理科

C3 協働制作（15分）

活用レシピ②

◎プレゼンテーションアプリに、実験で撮影した写真や動画を貼り付け、整理し考察しながらまとめる。

使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）

【活用の流れ】



②単元や課題ごとにスライドを作成していくと既習事項を振り返りやすい。

① 写真や動画を挿入し、実験の様子を確認しながら班で考察しまとめさせる。



気づいたこと

- ・あたたまった水は上にあがってからだんだんと下におりていった。
- ・試験管の真ん中で熱すると、そこから上しかあたたまりません。



まとめ

あたたまった水は上に動き、動きながら順に全体があたたまっていく。

③グループで作成したスライドを、学級で共有する。

	手 順	ポイント
①	グループごとに撮影した写真や動画を挿入し、実験の様子を確認する。	・特に変化の速い実験は、動画を撮影しておく、繰り返し確認ができ、考察につながる。
②	気付いたことを話し合いながら、班で考察し、スライドを作成する。	・スライドにまとめることで、自分たちの考えを整理させる。
③	グループごとのスライドを班で共有し、全体でまとめていく。	・スライド、動画などのグループの発表をもとに、学級全体でまとめる。
④	作成したスライドは保存しておく。	・既習事項を振り返る際に活用ができる。



もののとけ方

目標

○物の溶け方について、器具や機器などを選択し、正しく扱いながら調べ、それらの課程や得られた結果を適切に記録することができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT 活用例
①	○ものが水に溶けるとはどのようなことか観察をもとに話し合う。	◆ものが水に溶けるという現象に興味をもたせる。 活用レシピ① ◎無料動画アプリを活用し、シュリーレン法を用いて物質が溶ける様子を記録した動画を観察させる。 ◆食塩が水に溶ける様子を観察し、食塩などの物の溶け方について問題を見いだせるようにする。	
	ものが水に溶けるとはどのような状態になることだろうか。 また、ものが水に溶けると、きまりはあるだろうか。		
②	○ものを溶かす前と、溶かした後の水溶液の重さを調べる。【実験1】	◎実験結果の記録表を共同編集アプリで作成、配布し、班ごとの結果を随時入力できるようにする。	
④	○色がついたものが溶ける様子を見る。	◆物が水に溶けること、及び水溶液についてまとめさせる。	
⑤	○ものが溶ける量には限りがあるのか話し合う。	◎児童がいつでも閲覧できるよう、デジタル自動計りやメスシリンダーの使い方など、プレゼンテーションアプリで作成し、クラウド上にアップロードしておく。	
⑥	○食塩とミョウバンが水に溶ける量を調べる。【実験2】		
⑦	○水の量や温度を変えて、食塩とミョウバンの溶ける量を調べる。【実験3】	◎児童がいつでも閲覧できるよう、実験方法をプレゼンテーションアプリで作成し、クラウド上にアップロードしておく。 活用レシピ② ◎実験結果の記録表を共同編集機能を活用して作成、配布し、班ごとの結果を随時入力できるようにする。	
⑧			
⑨	○実験2と実験3の結果から考察する。	◆ものによって溶け方に違いがあることを捉えさせる。 ◎班ごとに入力した結果の一覧表を電子黒板やスクリーン等に掲示し、話し合う。	
⑩	○水溶液に溶けているものを取り出す方法について、話し合う。	◆これまでの実験から想起させる。	
⑪	○水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す。【実験4】	◎児童がいつでも閲覧できるよう、実験方法をプレゼンテーションアプリで作成し、クラウド上にアップロードしておく。	
⑫			
⑬	○実験4の結果をまとめ考察する。 ○海水から食塩を作り出す方法を考える。	◆実験3との関わりを踏まえて考察させる。	
⑭	○単元の学習をまとめる。 ○発展として「結晶」について学ぶ。	◆日常生活との関わりを踏まえてまとめさせる。 ◎無料動画アプリを活用し、結晶化する様子をタイムラプスで撮影した動画を視聴する。	

A 1 教師による教材の提示（10分）

活用レシピ①

◎無料動画アプリを活用し、シュリーレン法を用いて物質が溶ける様子を記録した動画を観察させる。

使用するアプリ等

「YouTube」

【活用の流れ】

①検索ワードは1つとは限らないので、いろいろと試してもよい。

②教師が事前に視聴しておき、児童の実態に合っているものを選択しておく。



	手 順	ポイント
①	「YouTube」を使い、「シュリーレン現象 観察」等のキーワードで検索する。	・ 検索ワードに「小学校理科」などを追記してもよい。
②	適切な動画を選択し、電子黒板やスクリーン等に投影する。	・ 動画を視聴することで、「ものがとける」という現象に興味をもたせることができる。 ・ 2～3分程度にまとめられているものがよい。

小学校5年 理科

C2

協働での意見整理（25分）

活用レシピ②

◎実験結果の記録表を共同編集機能を活用して作成、配布し、班ごとの結果を随時入力できるようにする。

使用するアプリ等

「Google スプレッドシート」「Google Classroom」（「Excel」「Numbers」）

【活用の流れ】

- ①書かせたい部分は空欄にしておく。
- ②「予想」や「わかったこと」などもワークシートに書かせる。

③班の結果を該当する欄に入力させる。

もののとけ方

課題
水の体積や温度を変えると、食塩やミョウバンのとける量は増えるのだろうか。

予想

方法
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

方法
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

結果

実験3
水の量

水の量	食塩	ミョウバン
1班	9	3
2班	8	3
3班	9	2
4班	8	3
5班	8	3
6班	9	2
平均	8.5	2.7

50mL

水温

水温	食塩	ミョウバン
1班	℃	℃
2班	℃	℃
3班	℃	℃
4班	℃	℃
5班	℃	℃
6班	℃	℃
平均	8.5	2.7

75mL

水温を上げる

水温	食塩	ミョウバン
1班	℃	℃
2班	℃	℃
3班	℃	℃
4班	℃	℃
5班	℃	℃
6班	℃	℃
平均	#DIV/0!	#DIV/0!

わかったこと

	手 順	ポイント
①	「スプレッドシート」でワークシートを作成する。	・ 課題や実験方法なども記載しておくで時間を有効に使える。
②	「Google Classroom」を使ってワークシートを全児童に配布する。	・ 全員共通の資料を用いて目的や方法等の共通理解を図る。
③	共同編集機能を利用し、結果が出たところからシートに入力させる。	・ 計算式を入れておくと、平均値が算出される。

小学校 1 年 生活



がっこう だいすき

目標

- 学校や通学路を探索する活動を通して、学校の施設や学校で働いている人々とその仕事を考えることができ、自分も学校の一員であることが分かり、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。
- 通学路の様子や学校生活を支えてくれている人々のことに気付き、安全に登下校できるようにする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ	①	○入学してからどのようなことがあったか、どのような人と出会ったかについて話し合う。 ○学校のことが分かる方法を考え話し合う。	◆学校には様々な人々がいることに気付き、学校のことをもっと知りたいという意欲付けをする。
	② ③	○幼稚園・保育園・こども園等と学校の施設や働いている人々の違い気付く。	◆学級全員で一緒に校庭や校舎内を探索しながら、これまで生活してきた幼稚園・保育園・こども園等と学校の施設や働いている人々の違いに気付くようにする。 ◆各場所のきまりやマナーについて触れながら探索させる。
	④	○学校探索をして、気付いたことやもっと知りたいことなどについて話し合い、グループごとに学校探索の計画を立てる。	◆学校の施設の位置や特徴などについて話し合わせる。 ◆気付いたこと、もっと知りたいことなどについて話し合い、学校への興味や関心を高めるようにする。 ◆人に話を聞くときの約束について話し合わせる。
調べる	⑤ ⑥	○グループで学校探索をする。	◆グループの友達と一緒に、自分が気になる場所へ行き、学校で働く人々と関わりながら、学校での生活は様々な人々や施設と関わっていることが分かるようにする。 活用レシピ① ◎興味をもった場所や人について学習用端末で静止画や動画を撮影する。
	⑦ ⑧	○学校探索をして気付いたことや分かったことを学級で発表する。	◆撮影した静止画や動画をもとに活動を振り返る。 ◆学級全体に分かるような伝え方を話し合い、発表準備をさせる。 活用レシピ② ◎グループごとに撮影してきた静止画や動画を提示しながらプレゼンテーションをする。
まとめる	⑨ ⑩	○通学路にある自然や人々や安全を守るための施設などに気付く。	◆学級全体で一緒に通学路を歩きながら、自然や安全を守るための施設、安全を守っている人々の存在等に気付くようにする。 ◆地域で楽しく安全に生活しようとする意欲を高める。

B 2 調査活動（35分）



活用レシピ①

◎興味をもった場所や人について学習用端末で静止画や動画を撮影する。

使用するアプリ等

学習用端末のカメラ機能（静止画や動画）

【活用の流れ】



①グループごとに静止画や動画を撮影させる。





②必要に応じて拡大機能を使わせる。





	手 順	ポイント
①	学習用端末のカメラ機能や録画機能の使い方を指導する。	・ 必要に応じて拡大することも指導する。
②	興味をもったり、気になったり、友達に紹介したいと思ったりした場所や施設、人などを撮影させる。	・ 安全に気を付けて撮影する。 ・ 人を撮影する前には許可を得てから撮るように指導する。
③	インタビューしている様子を撮影させる。	・ 人に話を聞くときのマナーについて考えながらインタビューさせる。

C 1 発表や話し合い（7分）

活用レシピ②

◎グループごとに撮影してきた静止画や動画を提示しながらプレゼンテーションをする。

使用するアプリ等

学習用端末の静止画や動画の再生機能

【活用の流れ】

①撮影した静止画や動画を大型モニター等に表示しながら、学級全員の前でプレゼンテーションさせる。



	手 順	ポイント
①	グループごとに撮影した場所や施設、人の静止画や動画の中から学級の友達に伝えたいことを選ばせる。	・複数の中から一つを選ばせる。
②	プレゼンテーションの中に、選んだ理由や自分達との関わりについても話すよう指導する。	・初めは例を示し、少しずつ自分達の言葉で話させる。
③	十分な練習時間を確保する。	・家庭学習の課題にすることも考えられる。
④	グループごとの端末を大型モニター等に接続し、撮影した静止画や動画を表示しながら、学級全員の前でプレゼンテーションさせる。	・発表の様子を授業後にも確認できるよう保存しておく。

小学校 6 年 音楽

こころのうた「おぼろ月夜」

目標

- 情景を思い浮かべながら、どのように表現したらよいかを考えることができる。
- 主旋律と副旋律との関わりを感じながら表情豊かに歌うことができる。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
つかむ・練習する	①	○範唱を聴く。 （重唱と主旋律） 副旋律に合わせて表情豊かに歌いましょう。 ○歌詞から情景を想像し どのように表現したら よいか「音楽を形作っ ている要素」から視点 を絞り、考える。 （音色、フレーズ、速度 など）	◆1 回目（重唱）は全体で聴くが、2 回目（主旋律）以降は 各自のタブレット上で教科書の QR コードを活用する。 活用レシピ① ◎各自が範唱で確かめたり試したりしながら、範唱を何度も 聴きなおす。
	②	○範唱を聴く。 （主旋律と副旋律） ○グループで重唱してい る様子を動画で撮影す る。	◆副旋律の範唱を聴き、タブレットで音源を試したり確かめたり しながら両方の旋律が歌えるようにする。 活用レシピ② ◎自分でどちらの旋律を歌うかを選んで、タブレットの音 源と合わせて演奏し、重唱を練習する。 ◆主旋律と副旋律の関わりを感じながら、どのように演奏すれば よいかタブレットで演奏の様子を撮影したり、確認したりし ながら、表現の工夫をする。 活用レシピ③ ◎重唱している様子をタブレットで撮影し、表現を工夫し たい部分が再現できているかを確認する。
表現する			

小学校6年 音楽

B 1 個に応じた学習（50分）

活用レシピ①②

◎各自が範唱で確かめたり試したりしながら、範唱を何度も聴きなます。

◎タブレットの音源と合わせて練習する。

使用するアプリ等

教科書に記載されているQRコード、「Google Classroom」
「YouTube」等

【活用の流れ】

タブレットに音源をアップする際は、「+作成」をクリックする。
児童は「授業」にアップされた音源で練習する。

	手 順	ポイント
①	全体で一度範唱を視聴したのち、主旋律部分を自分のタイミングで、ねらいに沿って何度も試したり確かめたりしながら聴き直させる。	・ 各自のタイミングで聴けるように、イヤフォン等を活用させる。
②	主旋律を何度も聴き直し、一緒に口ずさみながら、どのように表現したいかを考えさせる。	・ 楽譜に気付いたことをメモさせる。
③	伴奏のみの音源に合わせて、表現を工夫しながら主旋律を歌う練習をさせる。	
④	伴奏のみの音源や、主（副）旋律のみの音源などを使いながら、それぞれのパートの役割等を考えながら歌う練習をさせる。	・ 歌唱の様子をタブレット録画機能で録画し、自身を振り返らせる。

小学校6年 音楽

C3 協働制作（25分）

活用レシピ③

◎重唱している様子をタブレットで撮影し、表現を工夫したい部分が再現できているかを確認する。

使用するアプリ等

学習端末の録画機能

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	グループで伴奏の音源を使って、重唱を撮影させる。	・ 撮影時は、他の音が入らないように気を付けさせる。
②	1校時に考えた表現の工夫が再現できているかグループで確認して、動画を提出させる。	

小学校4年 図画工作



「カメラでせっ写!!」

目標

○デジタルカメラ等で日常の何気ないものを視点を変えて撮影、記録することで、新しい見方や考え方を育成する。また、友人と相互鑑賞することで自己理解や友人の作品のよさに気付かせる。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
導入	①	○日常、通り過ぎている自分の身近なものをデジタルカメラなどで視点を変えて撮影する。	◆撮影例を示し、課題に関心をもたせ、自分に合った撮影の仕方を考えさせる。 ◆教師が紹介する写真は、児童に「なんだろう?」「不思議な色や形をしている。」「〇〇のように見える。」など〔共通事項〕を意識した視点を持ち、課題に対し、興味・関心を抱かせるような取り組みにしたい。 ◆撮影対象物は、事前に撮影させておいても、場所を限定して実施してもよい。
	②	○「私の接写」を作成する。 「カメラでせっ写!!」したものを友だちに紹介し、意見交かんをしよう。	◆グループで1人が紹介する写真の枚数や、発表時間等は予め決定しておく。
展開	③	○グループ内で発表し意見交換する。	◆鑑賞し、自分の感想を書かせる際のルールを事前に決定しておく。 活用レシピ ◎ホワイトボードアプリを活用し、各自の「カメラで接写!!」したものを友達に紹介し、意見交換をする。 ◆友人作品を鑑賞し、自分の感想を付箋に書かせる。 ◆付箋に書く感想は、短く端的にまとめさせる。
整理	④	○教師が紹介したグループごとのホワイトボードアプリや、目を引いた作品や気になった感想などを視聴する。	◆鑑賞に使用したグループごとのホワイトボードアプリを電子黒板で表示したり、目を引いた作品や気になった感想などを紹介したりする。 ◆個人で紹介するために撮りためた写真等は、これからの活動でコラージュなどで応用できることを伝える。（ただし、友人（著作者）の作品は無断で使用できないことを確実に触れる。） ◆鑑賞したホワイトボードアプリは共有ドライブに保存して共有し、児童自身が自分で見られるようにする。
	⑤	○学習の振り返りとまとめをする。	◆友達の写真作品の表し方についてのよさや工夫したところについて確認し、まとめさせる。

C 1 発表や話し合い（35分）

活用レシピ

◎ホワイトボードアプリを活用し、各自の「カメラでせっ写!!」したものを友達に紹介し、意見交換をする。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】

①付箋機能を活用して感想を書かせる。「Google Jamboard」を活用することで考えを共有することができるため、対話が活発になるとともに、他者理解にもつながり、自己肯定感も高まる。

「カメラでせっ写!!」したものを友達に紹介し、意見交換をしよう

②児童の写真作品を最大限生かすための背景効果を考えさせる。

③児童の似たような感想は、鑑賞者が異なっているので可である。

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイルで「カメラで接写!!」を学級全体で共有しておく。また、グループごとに鑑賞する写真を指定しておく。	・グループで、鑑賞する写真を予め決めさせておく。
②	付箋機能を活用して、友人の作品について気付いたことを端的に書かせる。	・グループ内で予め、自分の付箋の色を決めさせておく。
③	グループごとの「Google Jamboard」を電子黒板で表示し、目を引いた作品や気になった感想などを紹介させる。	・授業後にも確認できるよう共有ドライブに保存しておく。

小学校5年 家庭



2年間で学ぶ家庭科とは？

目標

- 第4学年までの自分の生活を振り返り、2年間で学ぶ家庭科の内容を知る。
- 家庭科の学習に関心をもち、2年間の見通しをもって学習に取り組もうとする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
導入	10分	○めあてを確認する。	◆「家庭科」の学習が始まることを伝える。 ◆どんなことを学習するのかを予想させ、発表させる。 活用レシピ ◎グループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
	3分	○学習課題を作成する。	◆児童から出された疑問をもとに、5・6年生の2年間で家庭科を学習するのはなぜなのかという学習課題につなげる。 なぜ、家庭科を学習するのだろうか？
展開	10分	○衣生活・食生活・住生活・環境・消費生活について考える。	◆予想させた学習内容を、衣生活・食生活・住生活・環境・消費生活に分類させる。 ◎引き続きグループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
	7分	○学習内容を知る。	◆教科書を見ながら、家庭科で学習する内容を理解させる。
	10分	○家庭科で学習したいこと・できるようになりたいことを考える。	◆小学校卒業までに、家庭科で学習したいこと・できるようになりたいことを考えさせ、発表させる。 ◎引き続きグループごとにプレゼンテーションアプリの共同編集機能を活用して、発表資料を作成する。
まとめ	5分	○振り返り ○学習のまとめ	◆学習を振り返り本時のまとめをする。 2年間で自分にできることを増やし、生活をよりよくしていくため。

C2 協働での意見整理（合計25分）

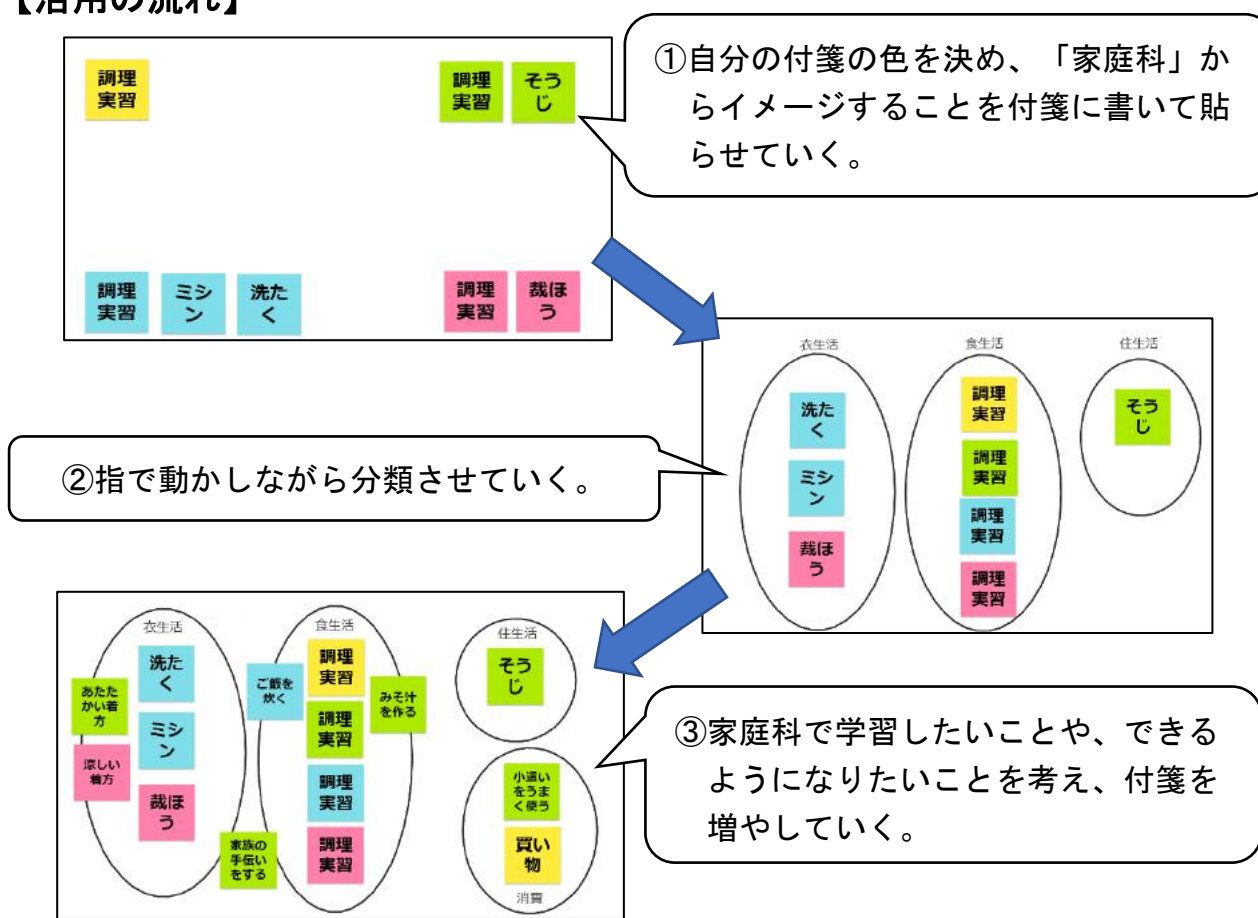
活用レシピ

◎ホワイトボードアプリを活用し、なぜ家庭科を学習するのかについて話し合わせる。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】



手順	ポイント
①「家庭科」の学習が始まることを伝える。 どんなことを学習するのかを予想させ、発表させる。	・グループで1つの「スライド」を共同編集させる。
②予想させた学習内容を、衣生活・食生活・住生活・環境・消費生活に分類させる。	・付箋を指で動かしながら分類する。
③小学校卒業までに、家庭科で学習したいこと・できるようになりたいことを考えさせ、付箋を増やしていく。	・グループの名前を付けて保存し、6年生の最後の家庭科の授業に確認する。

小学校4年 体育



器械運動 「跳び箱運動」

目標

○跳び箱運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、自分に合った場で、足を伸ばしたまま腰を高く保ち着手し、前方に回転することができるようにする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
わかる	①	○オリエンテーション 学習の進め方を理解し見通しをもつ。	◆掲示物を活用し、単元の見通しがもて学習活動の進め方が理解できるように配慮する。
	②	○伸膝台上前転と台上前転の違いを理解する。	◆台上前転との違いを見付ける活動を通して、伸膝台上前転の行い方が理解できるように配慮する。 ◎教師による演示を事前に撮影し、大型モニター等で見せる。各自の学習用端末にも入れておくことでいつでも確認することができる。
	③	○技を美しくするためのポイントを理解する。	◆膝を伸ばすタイミングはどうすればいいのかを実際に試しながら考えられるように配慮する。 ◎各自の学習用端末に自分の試技を録画する。
	④	○技をダイナミックにするポイントを理解する。	◆腰を高く保って行うことについて、着手の仕方、踏切り位置、空中局面に着目して考えられるよう配慮する。 ◎各自の学習用端末に自分の試技を録画する。 活用レシピ① ◎ホワイトボードアプリを活用し、自分の見つけたポイントを付箋機能でグループや全体で共有していく。
できる	⑤	○課題を発見し、場を選び、伝え合う。	◆自己の課題発見の仕方や、解決に向けた練習方法、場の選択の仕方について指導する。 ◎各自の学習用端末に自分の試技を録画する。
	⑥	○課題解決に向かって練習する。	◆自己の課題解決に向けて、試行錯誤することを通して、粘り強く課題を解決しようとする態度も育てる。 ◎各自の学習用端末に自分の試技を録画する。
	⑦	○技のポイントやできばえを伝え合う。	◆試技をする前に、見えほしいポイントを伝えることを指示し、できばえの伝え方や見る位置について指導する。 ◎各自の学習用端末に自分の試技を録画する。
まとめる	⑧	○オリンピック発表会 ○学習のまとめ	◆これまでの成果を発表する時間であることを伝え、緊張感をもって取り組めるように声をかける。 活用レシピ② ◎自己評価を各自の学習用端末により、アンケート機能を活用して入力する。

C 2 協働での意見整理（15分）



活用レシピ①

◎ホワイトボードアプリを活用し、自分の見付けたポイントを付箋機能でグループや全体で共有していく。

使用するアプリ等

「Google Jamboard」 （「Microsoft Whiteboard」「Keynote」）

【活用の流れ】

①グループごとに指定のスライドで作業をさせる。

ふみ切った後すぐにひざを伸ばす。

のびす

助走はあまりつけすぎず、ゆっくりとまわるイメージをもつ。

②伸膝台上前転のポイント（全体のもの）をタッチペンで書き込みをさせる。

ふみ切り板の前で、ためて大きく踏み込む。

ひじをのびして力を入れる

③付箋機能を活用して、各自で見付けたポイントを書かせる。
「Google Jamboard」を活用することで、グループや全体で考えを共有することができる。
※人によって色を変えるとよい。

	手 順	ポイント
①	授業前に「Google Jamboard」ファイル「伸膝台上前転」を学級全体で共有しておく。グループごとに指定のスライドで作業をさせる。	・グループ①は、スライド① グループ②は、スライド②のように予め指定しておく。
②	伸膝台上前転のポイント（全体のもの）をタッチペンで書き込みをさせる。	・書く内容は技のポイントに留める。
③	付箋機能を活用して、気付いたポイント（個人のもの）を書かせる。	・グループ内で予め、自分の付箋の色を決めさせておく。
④	グループごとの「Google Jamboard」を電子黒板で表示し、学級全体で気付いたことを共有させる。	・授業後にも確認できるようドライブに保存しておく。

小学校4年 体育

B 1 個に応じた学習（5分）



活用レシピ②

◎自己評価を各自の学習用端末等により、アンケート機能を活用して入力する。

使用するアプリ等

「Google フォーム」 （「Microsoft フォーム」 ）

【活用の流れ】

自己評価

本時の学習をふり返って自己評価しましょう。

*必須

本時のねらいは達成できましたか？ *

- ☐ 十分達成できた
- ☐ おおむね達成できた
- ☐ 達成できなかった

本時のふり返り *

ねらい対してどうだったのが具体的に書きましょう。

回答を入力

送信

①事前に「Google フォーム」で質問を作成して

②自己評価を各自の学習用端末から入力し、送信させる。

③文字の入力に時間を要する児童には、紙媒体のものも用意しておく。

	手 順	ポイント
①	事前に「Google フォーム」で質問を作成しておく。	・発達の段階に応じて、入力方法は変える。
②	自己評価を各自の学習用端末から入力し送信させる。	・学習カードの代わりにタブレットを活用する。
③	文字の入力に時間がかかってしまう児童には、紙媒体のものも用意しておく。	・紙に書かせ、後から入力をさせる。

小学校 3 ・ 4 年 外国語活動



アルファベットで遊ぼう

目標

○身近な場所にあるものを通して、アルファベットに慣れ親しむ。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
①	○世界の色々な文字に触れる。 ○アルファベットの読み方を知る。	◆世界の様々な文字に触れさせて、文字に興味をもたせる。 ◆アルファベットの正しい読み方を聞かせ、音の違いに気付かせる。 ◎デジタル教材を活用して、アルファベットの音声（読み方）と文字に触れさせる。
		アルファベットに親しもう。
②	○アルファベットの読み方と文字の形を一致させる。 →聞いて文字が分かる。	◆クイズなどを通して、文字の形に興味をもたせる。 ◎デジタル教材を活用して、アルファベットに触れさせる。
③	○身近なアルファベットを見付ける。 ○アルファベットの読み方と文字の形を一致させる。 →文字を見て言える。	◆日常生活の中で、アルファベットを目にする機会が多いことを確認して、活動につなげる。 活用レシピ ◎撮影したアルファベットの画像でスライドをつくり、アルファベットに慣れ親しむ。
④	○アルファベットの読み方と文字の形を一致させる。 →文字を見て言える。	◆第3時に作ったスライドを復習に活用する。他の学級とも共有し、楽しみながら読み方の練習ができるように工夫する。 ◆ゲーム等を通して、アルファベットに慣れ親しませる。 ◎各学級で作成したスライドは、共有しておく。

小学校3・4年 外国語活動

C3 協働制作（25分）

活用レシピ①

◎撮影したアルファベットの画像でスライドを作り、アルファベットに慣れ親しむ。

使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）
学習用端末のカメラ機能

【活用の流れ】

学校の中でアルファベットを見つけたよ。

他の児童が作成したスライド

見つけた場所は、（私のふではこの）だよ。

学校の中でアルファベットを見つけたよ。

①見付けたアルファベットの写真を貼り付けさせる。丸や矢印などを使って、発表する際の工夫をさせる。

見つけた場所は、（ろうか）だよ。

②興味をもった児童が、休み時間などに見付けに行けるように、どこで見付けたかも書かせる。

	手 順	ポイント
①	共同作業ができるように、テンプレートを作成しておく。	・グループごとにスライドを色分けしておく。
②	カメラを使って、校内にあるアルファベットを撮影させる。	・スライドにしたときにアルファベットが見えやすいように撮影させる。
③	撮影したアルファベットの画像を貼り付けて、スライドを作成させる。	・たくさん撮影できた児童には、テンプレートをコピーして作成するように伝える。

小学校5・6年/中学校全学年 外国語



スピーチ、Show & Tell などの発表活動（中学校の例）

目標

○相手に自分の考えが効果的に伝わるように発表することができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
①	○前年度のスピーチ動画を視聴する。	◆前年度に実施した同様のスピーチ動画などを視聴し、具体的なゴールのイメージをもたせる。 ◎また、ホワイトボードアプリ等でスピーチのよい点について意見を共有する。
	相手に自分の考えが伝わるようにスピーチしよう。	
②	○題材についての英文を読み、ペアで考えを伝え合う。 ○話した内容を基に、自分の考えを書く。	◆考えや意見を伝える表現を確認する。効果的な表現を使っていたペアがいた場合、全体で共有する。 ◆内容を伝え合うことに重点を置く。 ◆書く活動では、内容に重点を置きながら、正確さや文の構成も意識させる。
③	○ペアで互いの英文を読み合い、修正する。 ※相手を替えて、同様の活動を何度か行う。	◆内容に重点を置きながら、正確さや文の構成も意識させる。 ◆互いに読み合うことで、効果的な表現などについて学び合う機会を設定する。
④	○メモを作り、スピーチの練習をする。 ○スピーチを録画する。	◆内容の理解を深めるように支援する。 ◆感想を書く活動につなげるために、Inferential Questions（推論発問）も用意し、自分の考えを表現する場面をつくる。
⑤	○スピーチ動画を視聴する。 ○自分のスピーチへのコメントをもとに、スピーチの練習を行う。	◆重要表現について確認する。 ◆解説が中心にならないように、英文の内容に関連させながら表現の確認を行う。 活用レシピ ◎スライドで動画を共有し、改善点などについての意見交換を通して発表の質を高める。
⑥	○ペアで互いのスピーチを録画し、意見交換をしながら練習を行う。 ○JTE や ALT を相手にスピーチをする。	◆ペアやグループでの意見交換を通して、発表の質を高めていく。 ◆録画したスピーチを見ながら意見交換をさせる。 ◆ALT と ICT 活用により、活動時間を十分に確保する。
⑦	○スピーチ発表を行う。	◆発表の様子は録画しておき、次年度の活動に活用できるようにする。 ◎ホワイトボードアプリの付箋機能を使って、互いの発表に対してコメントする。

※読む活動や書く活動を音声での活動（聞く、話す活動）に置き換えて単元を計画することで、小学校での実践に応用することが可能である。

小学校5・6年/中学校全学年 外国語

C2 協働での意見整理（20分）**活用レシピ**

◎スライドで動画を共有し、改善点などについての意見交換を通して発表の質を高める。

使用するアプリ等

「Google スライド」（「PowerPoint」「Keynote」）

【活用の流れ】

①スライドに動画を貼り付け、共有する。

- ・聞き手に質問をしていて、引きつける工夫をしていたのがとてもよかった。
- ・間の取り方が上手だった。
- ・聞いている人に、視線を送っていた。

②動画とアドバイスを一枚のスライドにまとめることで、改善点などを意識しながら自分のスピーチを見直すことができる。

	手 順	ポイント
①	「Google Classroom」等を活用し、予め提出させたスピーチ動画をスライドに貼り付け、共有しておく。	・グループごとにスライドの背景を色分けしておく。
②	各自のペースでスピーチ動画を視聴させ、コメントを書き込ませる。	・さらに良いスピーチにするためにはどうするかという視点でコメントを書き込ませる。
③	コメントを確認しながら、自分のスピーチの見直しをさせる。	・他のスピーチへのコメントなども参考にして、自分のスピーチの改善点を考えさせる。

※この流れを、単元の中に複数回計画し、実際の活動と練習や指導の時間をスパイラルに組み立て、スモールステップで目標に迫るように工夫する。

小学校5・6年 外国語



行きたい国や地域を紹介しよう

目標

○相手に伝わるように、写真などを見せながら、行きたい国や地域とその理由を発表することができる。

指導計画

時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
①	○JTE や ALT の行きたい国や地域についての話を聞く。	◆地図アプリを活用して、児童の興味を引き付ける。 ◆具体的な発表のゴールをイメージできるように、簡単な表現を使って話すようにする。 ◎地図アプリで検索機能や拡大表示、3D 表示などを使って話す。
	行きたい国や地域を、理由をつけて発表しよう。	
②	○様々な国の名所や世界遺産についてまとめた話を聞く。	◆聞き取るポイントを示すなど、目的をもって聞かせる。 ◆視覚的な情報を与えるなどの支援を工夫する。
③	○行きたい国について、聞いたり、話したりする。	◆理由の言い方なども、あわせて聞かせるように工夫する。 ◎教科書の QR コードを活用するなどして、個々のペースで学習を進められるように工夫する。
④	○行きたい国について、尋ねたり、答えたりする。	◆一問一答から、徐々に理由を付け加えるなど、スモールステップで目標に迫るように工夫する。 ◆既習の表現で理由が言えることに気付かせるように工夫する。
⑤	○行きたい国について伝え合う。	◆ペアやグループで伝え合い、互いにコメントをし合うなどして、学び合いの機会をつくる。 ◆よかったコメントなどを全体で共有する。
⑥	○行きたい国について、理由を含めて話す内容をまとめる。	◆ICT 活用は発表の補助資料であり、外国語を使うことが目標であることを押さえた上で、アプリ等を効果的に使えるように支援する。 活用レシピ ◎地図アプリの表示形式などを効果的に使って、相手に伝わりやすいように発表する。
⑦	○行きたい国について発表し合う。	◆実際に使いながら練習させ、効果的な使い方を考えさせる。 ◆伝わりやすい発表にするためには、資料をどのように使うとよいかという視点で互いの発表を見合う。 ◎ホワイトボードアプリ等に一人一人のスライドを作成して共有しておき、付箋機能を使って、互いにコメントする。

小学校5・6年 外国語

B4 表現・制作（30分）

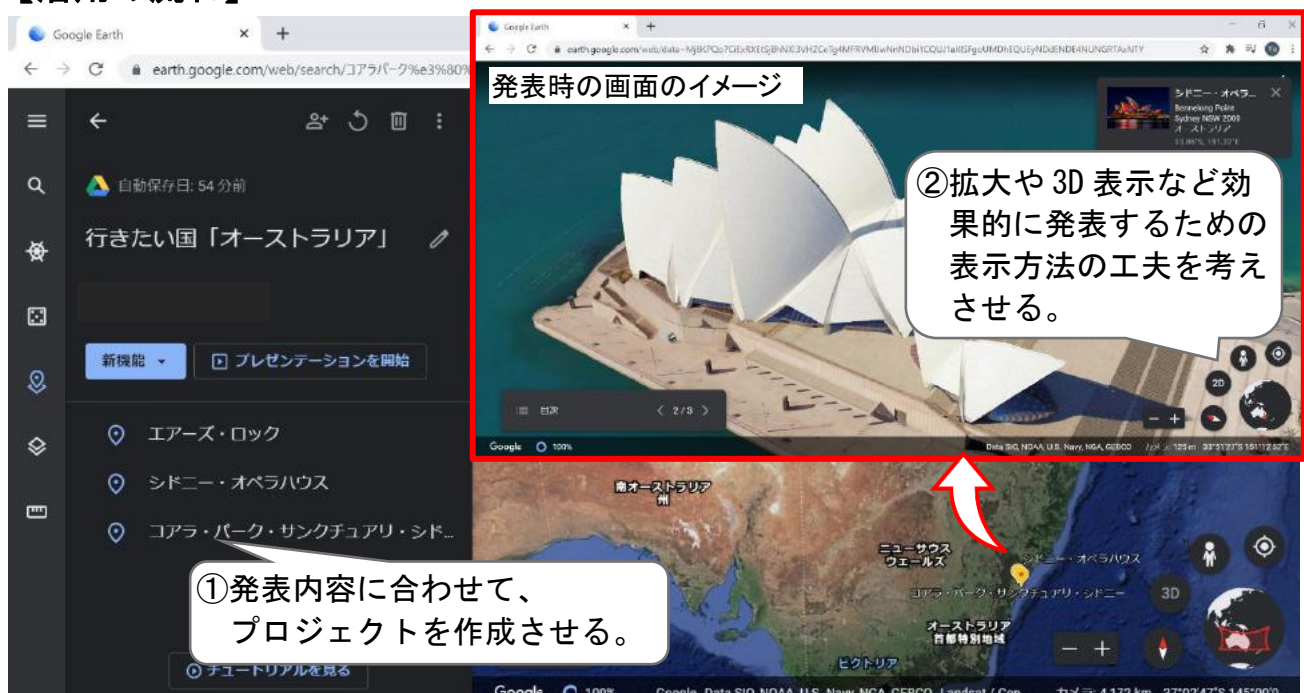
活用レシピ

◎地図アプリの表示形式などを効果的に使って、相手に伝わりやすいように発表する。

使用するアプリ等

「Google Earth」

【活用の流れ】



	手 順	ポイント
①	行きたい国でしたいことに関連する場所を「Google Earth」で見付けさせる。	・ 検索機能等を使って、時間をかけずに行う。
②	プロジェクトを作成、提出させる。	・ 発表の内容に合わせて、スライドを作成する。
③	作成したプロジェクトを使いながら、発表の練習をする。JTE、ALT、ペア、グループなど相手をかえて練習させる。	・ 単元導入時などに、あらかじめモデルを示しておく。 ・ 効果的な表示方法などを、実際に発表の練習をしながら考えさせる。

※グループで行きたい国を決めて、共同で一つのプロジェクトを作成して、その中で一人一人が行きたい場所を発表するという形式で行うこともできる。

小学校3・4年 道徳



「心と心のあく手」（「わたしたちの道徳」文部科学省）

ねらい

○今まで学級の児童が考えていた「親切」と、そっと後ろをついていく「ぼく」の行為を比較し考えることを通して、「見守ったり、励ましたりする親切もある」ということに気づき、相手のことをより深く考えた親切を行おうとする態度を育てる。 B【親切、思いやり】

指導計画

		学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
導入	1	○親切に関わるアンケート結果を見る。	活用レシピ ◎アンケート機能を活用して事前にアンケートを行い集計する。アンケート結果を提示し、問題意識をもたせる。 ◆ねらいに関わるアンケート結果を提示し、自分との関わりで考えられるようにし、問題意識をもたせる。
展開	2	○教材を聞き話し合う。 ①目の前にいる苦しそうなおばあさんを見て、主人公のぼくはどんなことを考えたか。 ②おばあさんに「家まですぐだからいいですよ。」と言われ、ぼくはどう思ったか。 ③ぼくはどのような思いから、おばあさんの後をついていったのか。 ④今まで自分が考えていた親切と、ぼくがした親切は違いがあったか。（中心発問） ※発問①のところで、ぼくがしようとした親切は無駄だと思うか。（補助発問）	◆アンケート結果からも、多くの児童が、この場面のように「何かをしてあげる」ことが親切であると考えている。発問④で「見守る、応援する、見せない」親切について考える際に対比するための布石とする発問である。 ◆誰にでもある「親切的な行為」を行う時の葛藤も捉えさせる。 ◆親切にしようと思ったのに断られた時、ムッとしたり、やめておけばよかったと思ったりしてしまう心について人間理解を深める。 ※この後、おばあさんが歩く練習をしているとお母さんから聞いたことを確認する。 ◆ぼくの思いやりとぼくの「見守る、応援する、見せない」親切という行為を捉えられるようにする。 ◆ここで再度、導入のアンケート結果に注目させる。 ◆アンケート結果と発問①が、これまで児童が考えていた親切であると捉えられる。それと発問③で考えたぼくの「見守る、応援する、見せない」親切と対比させ、本時の新たな学び（見守ったり励ましたりする親切もある）を明確に捉えられるようにする。 ◆本時の学びである「見守ったり、励ましたりする親切」をいつもすればよいわけではなく、相手の状況により、これまで考えてきた「手を差し伸べる」親切もとても大切であることを、改めて簡潔に押さえる。
	3	○これまでの自己を見つめて書く。	◆発問④で考えたことについて、これまでの自己を見つめられるようにする。
終末	4	○教師の説話を聞く。	

小学校3・4年 道徳

C1 発表や話し合い（5分）

活用レシピ

◎アンケート機能を活用して事前にアンケートを行い集計する。アンケート結果を提示し、問題意識をもたせる。

使用するアプリ等

「Google フォーム」 （「Microsoft フォーム」「slido」等）

【活用の流れ】 ①「Google フォーム」でアンケートを作成し、事前に入力・送信させる。



★ICTを活用するメリット

- ・アンケートの集計や結果提示物の作成時間等を大幅に短縮できる。
- そのため、使いやすい手立てとして、多くの授業に生かすことができる。

	手 順	ポイント
①	「Google フォーム」を作成する。	自動で集計されるが、一人一人の回答の内容も確認できるので、個々の児童の考えを丁寧に把握することを大切にする。
②	児童に「Google フォーム」を送信する。	
③	回答結果を確認し、授業で提示するデータとして整理する。	
④	「導入、発問④、自己を見つめて書く」活動においてアンケート結果を活用し、主体的に自分との関わりで考えられるようにする。	①児童生徒の実態を把握できる。 ②問題意識をもたせやすくなる。 ③これまでの自分を想起させることができ、自分との関わりで考えさせやすくなる。 といった事前アンケートのメリットを生かす。

小学校6年 総合的な学習の時間



やさしい人・やさしいまち～「支える人」になろう～

目標

○地域の高齢者との共生を課題に、諸活動を通して高齢者の生活を支える人々や取組、工夫や努力、思いに気付き、「高齢者を大切にできるまち」や「自分たちにできること」を学び、今後の生活に生かそうとする。

指導計画

	時	学習活動	◆指導上の留意点 ◎ICT 活用例
情報整理	5	○「高齢者」に対する意識の事前確認 ・統計やアンケートから地域の実態を知る。 ・イメージを話し合う。	◆地域の高齢者数の推移等のデータや情報をもとに、実態の理解を促す。 ◆「高齢者」に持つイメージについてグループで話し合わせて整理を促すことで、次の活動への意識付けをする。
課題情報	5	○地域の人々の思いを調査する。	◆児童から出された疑問等をもとにインタビュー項目を考え、保護者や地域で働く人々、有識者から意見や情報を集めるようにする。 活用レシピ① ◎ビデオ会議アプリを活用し、地域の人々や高齢者介護施設の職員にインタビューして情報を収集する。
整理 表現・まとめ	20	○交流会の準備をする。	◆事前に高齢者介護施設での交流会について依頼しておく。 ◆直接体験の場として交流会を設定できないことがあり得るため、ICTを活用したレクリエーション等の準備も想定する。 ◎ホワイトボードアプリを活用し、グループでアイデアを出し合ったり練り上げるようにする。また、グループ間の状況をお互いに確認し合えるようにする。
	5	○交流会をする。	◆交流会の様子を撮影（記録）しておく。 ◎施設の高齢者や職員に事後アンケートを行う。その際、質問フォーム作成アプリの活用が考えられる。
	2	○交流会の振り返りをする。	◆交流会での取組や事後アンケートの内容から学んだこと等を振り返らせる。
表現・まとめ	10	○学習の振り返り ○発表資料の作成	◆これまでの学びや自身の変容について表現させる。 ・個人でまとめる（プレゼンテーション） ・グループでまとめる（プレゼンテーションや創作物）
	3	○グループごとの発表 ○学習のまとめ	◆事前に発表の仕方を確認しておく。 ◆課題について自分の考えを書かせる。 活用レシピ② ◎アンケート機能やドキュメントの共有機能を活用し、学級全体で学びを深める。

小学校6年 総合的な学習の時間

C4 学校の壁を越えた学習

活用レシピ①



◎ビデオ会議アプリを活用し、地域の人々や高齢者介護施設の職員にインタビューして情報を収集する。

使用するアプリ等

「Google Meet」（「Teams」「FaceTime」「Zoom」等）

【活用の流れ】

②必要に応じて、インタビューを録画する。



①「Google Meet」にログインする。



③必要に応じて、Google Jamboardや画面共有機能を活用して、インタビューを活発にする。

	手 順	ポイント
①	事前にグループ内でインタビューする相手を分担しておく。	・相手には事前にインタビューの日時等を調整しておく。
②	インタビューする際、学習上メモをとりながら行えるとよいが、事後にインタビューの様子を振り返ることも考えられるため録画する。	・インタビューを録画する際、相手の許諾を得てから行う。
③	話す言葉だけで伝わりにくいときには、様々な機能を活用する。	・児童の今後のICT活用スキルを向上させるためにも活用を促す。
④	インタビュー内容をホワイトボードアプリ（Google Jamboard 等）を活用してグループで共有する。	・授業後にも確認できるようドライブに保存しておく。

小学校6年 総合的な学習の時間

C 1 発表や話し合い（45分）

活用レシピ②



◎アンケート機能やドキュメントの共有機能を活用し、学級全体で学びを深める。

使用するアプリ等

「Google フォーム」「Google ドキュメント」
（「Microsoft フォーム」「Word」「Pages」）

【活用の流れ】

こちらは、「Google ドキュメント」を活用した例で

自分たちにできることは？ - Google ドキュメント

ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 ツール アドオン ヘルプ 最終編集: 数秒前

ドキュメントに追加した見出しがここに表示されます。

＜今までの学習や仲間の発表を見て、聞いて…＞

コメント「自分たちがお年寄りの方々にできることは何だろう？」

自分から声をかける！

いろいろな話を聞く。

住んでいるところに危険な場所がないかチェックする。

今度はお年寄りを学校に招待する。

これからもテレビ電話などでいろいろ話をする。

もう一度交流会をする。

今のうちにたくさん勉強しておく。

①担任は簡単に
入力準備をしておく。

②複数人が同時に入力する。リアルタイムで質問に対する意見を書かせて、学びを共有する。

	手 順	ポイント
①	「フォーム」を活用する場合 質問事項を作成しておき、児童に回答させる。 回答内容を可視化し、学びを共有する。 ※中学校「総合的な学習の時間」のページを参照	・ 事前の調査の際に確認した「高齢者のイメージ」が学習前後で変容したことを感じさせる。
②	「ドキュメント」を活用する場合 リアルタイムで質問に対する意見を書かせて、学びを共有する。	・ 少数意見や挙手の少ない児童の意見を積極的に取り上げる。

小学校5年 学級活動（2）



インターネットの利用

目標

○インターネット利用時の危険性について理解するとともに、安全に利用しようとする態度を身に付ける。

指導計画

	学習活動	◆指導上の留意点	◎ICT 活用例
導入（つかむ）	○アンケート結果をもとにした話し合い ○本時の課題を知る。	◆アンケートの結果を確認し、誰にでも当てはまる問題であることを確認し、関心を高めるようにする。 活用レシピ ◎アンケート機能を活用し、学級の実態を把握し、問題点を明らかにする。	
	安全なインターネットの利用の仕方を考えよう。		
展開（さぐる・見つける）	○インターネットトラブルの例や危険性についての話し合い ○トラブルに巻き込まれてしまう原因についての話し合い （教材動画） 	◆インターネット利用時の危険性について、知っていることを話し合う。 ◆なぜネットトラブルに巻き込まれるのか、資料をもとに話し合う。 例：無料アプリをダウンロードするときに個人情報を入れてしまった。 内容を確認せずに、アプリをダウンロードしてしまった。 ◎インターネット利用の危険性についての動画を視聴し、トラブルの原因について考えさせる。 【参考資料】 文部科学省作成「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」（児童生徒向けの動画教材） https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbAOd2f-4u_Mx-BCn13GywDI	
	○安全なインターネットの利用方法についての話し合い	◆トラブルに巻き込まれないようにするためには、どのようにインターネットを利用したらよいか考えさせる。 ◎ホワイトボードアプリを活用し、「安全な利用方法」について話し合わせる。	
終末（決める）	○自分の実践目標を決める。	◆学級全体での話し合いの内容を参考にしながら、目標を決められるようにする。 ◆ワークシートを自宅に持ち帰り、家庭でもインターネットの利用について話し合うよう伝える。	

A 1 教師による教材の提示（10分）

活用レシピ

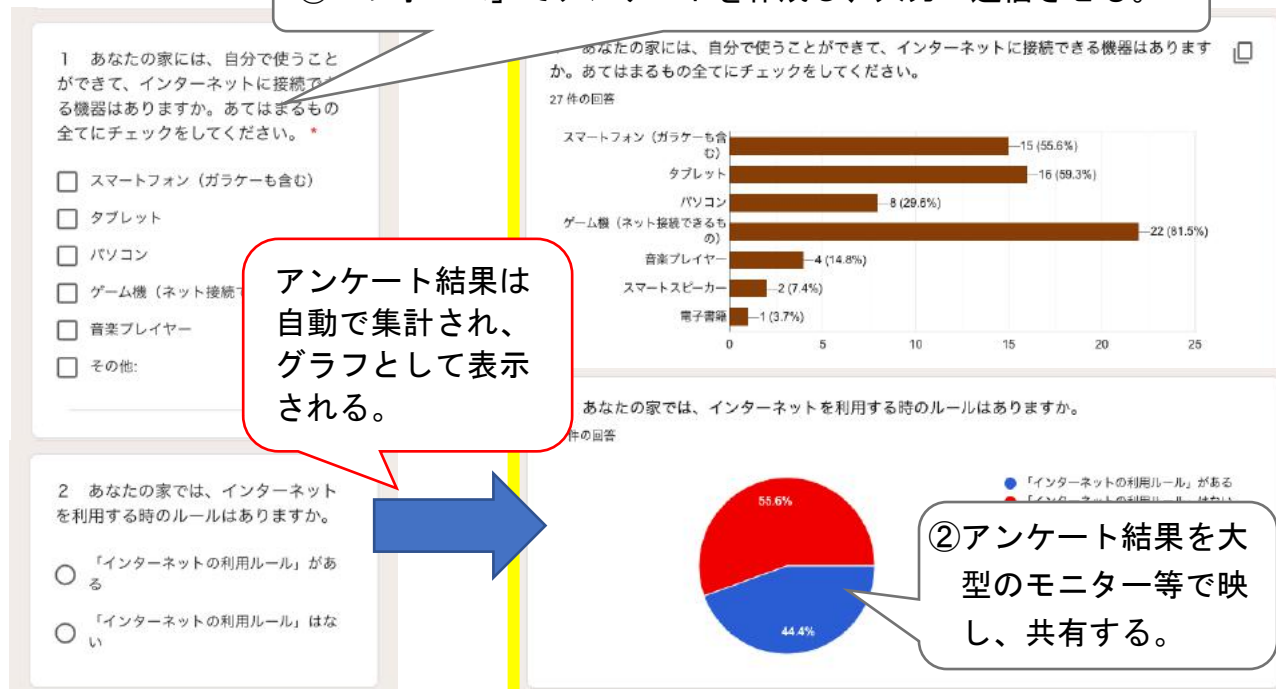
◎アンケート機能を活用し、学級の実態を把握し、問題点を明らかにする。

使用するアプリ等

「Google フォーム」 （「Microsoft フォーム」）

【活用の流れ】

①「フォーム」でアンケートを作成し、入力・送信させる。



	手 順	ポイント
①	事前に「Google フォーム」でインターネットの利用に関するアンケートを作成し、児童に送信しておく。 アンケートの項目例	①ネット接続可能な機器 ②家庭でのネット利用のルールの有無 ③個人情報の書き込み ④アプリのダウンロードの有無 ⑤迷惑メールの受信 など
②	授業の導入において、アンケートを入力・送信させる。	・課題として事前に入力させる方法もある。
③	集計結果を大型モニター等で表示し、学級の実態を共有し、話し合う。 ※児童が回答した内容は、自動的に集計され、グラフ化されるため、集計する必要はない。	・スマートフォンだけではなく、身近なものでもネットに接続可能であることを押さえる。